◉故事成語がズバリわかる！【荀子編③】



もりもり智慧(ちえ)のわく書⑤



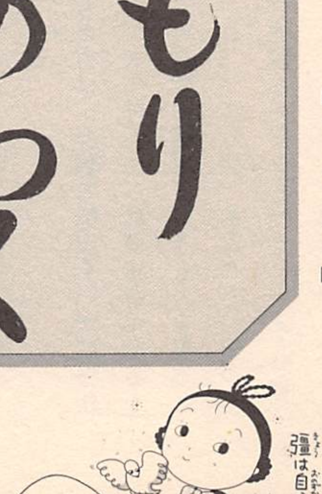
真理の御魂(みたま) 最聖 麻原彰晃尊師

● 故事成語がズバリわかる！【荀子編③】



もりもり智慧のわく書⑤

真理の御魂 最聖 麻原彰晃尊師



はじめに

いよいよ、『もりもり智慧のわく書』も五巻目を迎えることとなった。今回のこの「荀子（じゅんし）③」は、その内容を見ていただいたらわかるとおり、彼が大乗的真理の実践を過去世において行ない、その結果として彼が儒教を継承し、そして自分自身の経験とマッチした新しい教えを展開していることに、読者諸氏は気づくはずである。

もともと大乗の教えの根幹をなす考え方は、経験の構成をいかに浄化し、そして、神々へと移行していくか、次に神々から真理勝者へ至るかにすべてが集約される。ところで、この経験の構成というものを根本として考えた場合、わたしたちが、けがれ、つまり悪であることに気づくのである。したがって、荀子の説は性悪説なのである。そしてそれは、

学び、学んだことを正しく実践することにより浄化されると彼は説く。これもまさに、大乗仏教の本質的な教えの中心を指し示すものであることを読者諸氏は理解できるだろう。

そして、すべての魂がこの法則に気づいたとき、最終的にはすべての苦しみから解放されることになるのである。

皆さんの苦しみの原因を、この書が一つでも解決し、そして皆さんの智慧を増大させることを祈りたいと思う。

麻原彰晃

もりもり智慧のわく書⑤

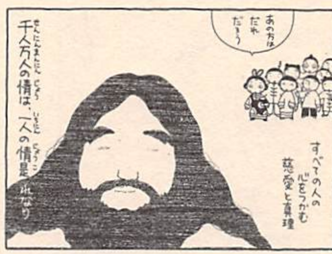
絶対の真理のメガネで世界を見わたすと……

—万世不易（ばんせいふえき）



【荀子編③】

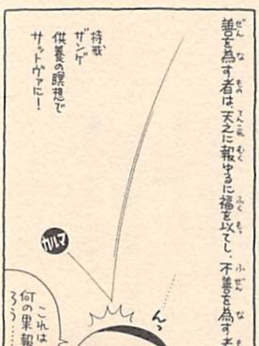

疑念のない人生こそ
なんて明るい人生でしょうか!!
休まず たゆまず 真理の実践
うんしょ うんしょ
よいしょ よいしょ
がんばってペダルを踏み続けてネ……
物腐りて虫生ず


千人万人の情は、一人の情是なり
あの方はだれだろう
すべての人の心をつかむ 慈愛と真理


道は邇しと雖も行かざれば至らず
とにかく歩け! 歩け!
「真理」という最高に幸せな最終地点に向かって……
ZZZ


流丸は甌臾に止まる
コレデモカ!
どうして平気なカオしてるんだ!?
どんな中傷も つよい捨断と正しい判断でブロックアウト!


鉤に須有り
本当に利益になることに 時間をつかおう!
来世がコワイ…
つまらないことに人生ついやしてあっという間に終わってしまったわ…


善を為す者は、天之に報ゆるに福を以てし、不善を為す者は、天之に報ゆるに禍を以てす
持戒
ザンゲ
供養の瞑想で
サットヴァに!
カルマ
ん?
これは何の果報だろう……





●編集スタッフ
聖者ヤソーダラー最上善逝
聖者マハーナーマ化身成就師
聖者ヴァンギーサ上流師
聖者タントラバッダー到達光正師
瓦吹英宣
●イラストレーション
片桐りえ
●カバー・デザイン
スワミ・タントラスバー
●題字
スワミ・ヴァラカツ

❖道は邇しと雖も行かざれば至らず

［荀子、脩身］　道雖邇不行不至、事雖小不為不成。其為人也多暇日者、其出入不遠矣。

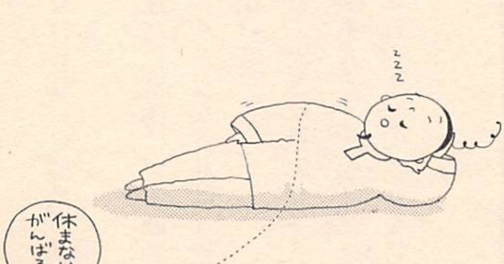
【書き下し文】

道は邇しと雖も行かざれば至らず、事は小なりと雖も為さざれば成らず。其の人と為りや暇日多き者は、其の出入遠からず。

【訳】

どんなに道が近くても、歩いていかなければ到着しないし、どんなに事が小さくても、実行しなければ完成しない。もともと暇にまかせて何もしない人は、凡人を超える結果

に行き着くことはできないのである。



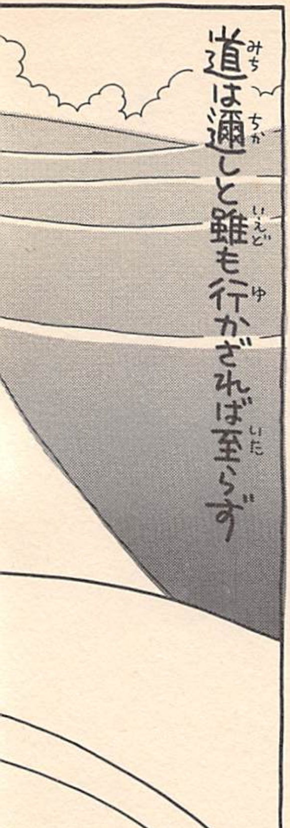
今日の故事成語は「道は邇しと雖も行かざれば至らず」です。

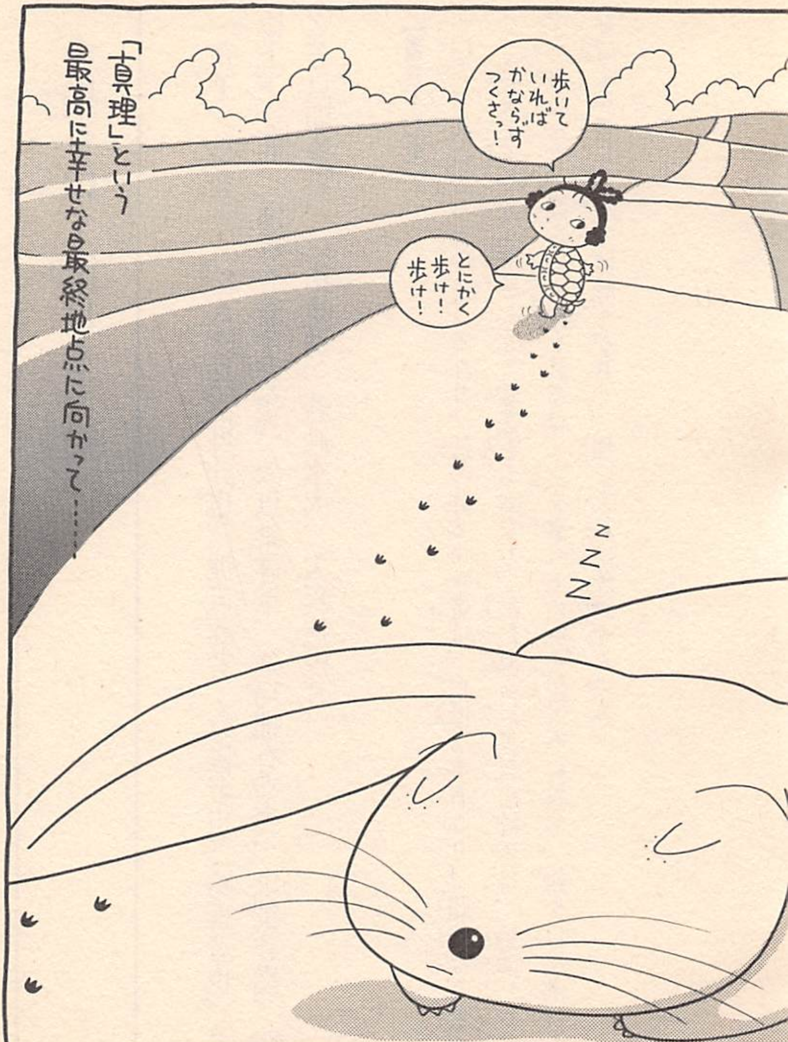
これは、どんなに近い道であったとしても、その道を歩かなければ、目的地へ到達できないことを表わしています。

そして今、皆さんは最も近くに「真理」という、皆さんを最高に幸福にする最終地点を見ています。しかし皆さんが、もしこの真理に向かって歩こうとしなければ、皆さんは決して本当の意味での幸福・自由・歓喜を得ることはできないでしょう。

なぜならば、この一見近い真理の道筋は、実行してこそ初めて大きな恩恵を与え、そして、その実行こそがわたしたちの魂にとっての究極の幸福をもたらすからなのです。

したがって皆さんは、今日のこの故事成語をしっかりと学ばれ、そしてこれを自分自身に当てはめ、真理の実践を行なってほしいものです。




歩いていればかならずつくさっ！
とにかく歩け！歩け！
「真理」という
最高に幸せな最終地点に向かって……
ZZZ

❖指を以て沸けるを撓す

［荀子、議兵］　仁人之兵不可詐也。彼可詐者、怠慢者也。路亶者也。君臣上下之間、滑然有離徳者也。故以桀詐桀、猶巧拙有幸焉、以桀詐堯、譬之若以卵投石、以指撓沸、若赴水火、入焉焦没耳。

【書き下し文】

仁人の兵は詐るべからざるなり。彼の詐るべき者は、怠慢なる者なり。路亶なる者なり。君臣上下の間、滑然として離徳有る者なり。故に桀を以て桀を詐るは、猶お巧拙して幸有らんも、桀を以て堯を詐るは、之を譬うるに卵を以て石に投じ、指を以て沸けるを撓すが若く、水火に赴くが若く、焉に入れば焦没せんのみ。

【訳】

仁者の兵に対しては詐術を用いることはできません。詐術を用いることができるのは、怠慢な者に対してであり、疲れて弱っている者に対してであり、君主と臣下、上下の間が乱れ、離れ離れになっている者に対してであります。

つまり、桀のような暴君が桀のような暴君に詐術を用いるなら、まだ上手下手による勝利があるでしょうが、桀のような暴君が堯のような聖王に詐術を用いるのは、たとえてみれば、卵を石に投げつけたり、指で熱湯をかき回すようなものであり、水や火の中に飛び込むようなものであります。この中に入るなら、焼け死ぬか溺れ死ぬかするだけでしょう。

【注】

・桀——夏の最後の王。暴君の代表とされる。

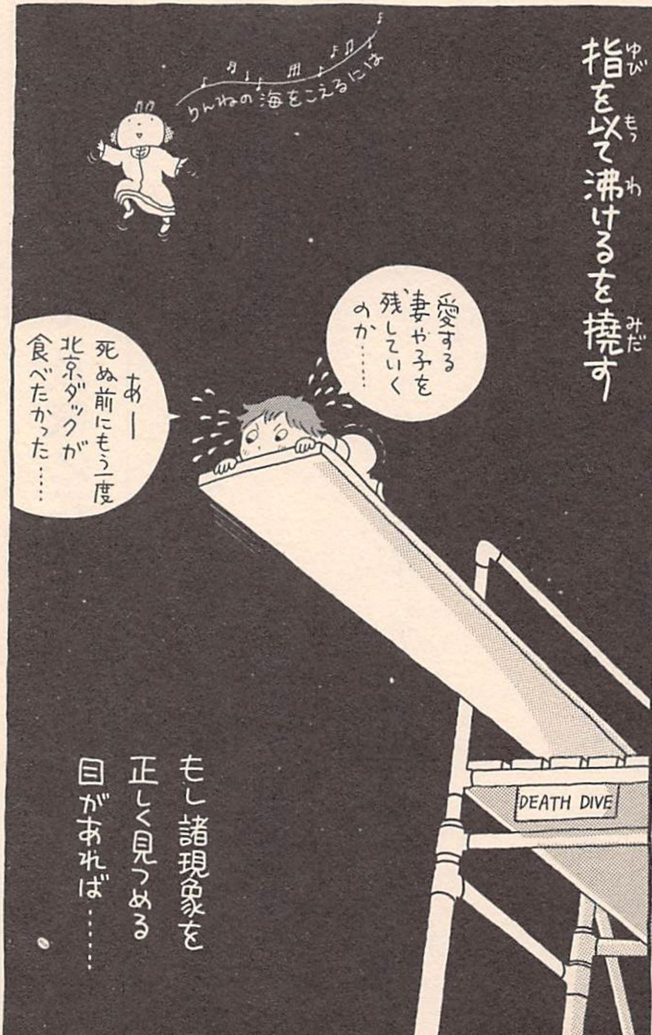
・堯——中国古代の聖天子。五帝の一人。舜帝と並び賞される。

今日の故事成語は「指（ゆび）を以（もっ）て沸（わ）けるを撓（みだ）す」です。

これは、沸騰したお湯を指でかき混ぜることから、不利益はあったとしても利益の全くない様子を表わしています。

確かに、わたしたちは日常おいしいものを食べ、そして楽しく過ごしたいと考えています。しかし、このおいしいものを食べ楽しく過ごすことが、わたしたちの死に際して多くの苦しみを生むことをだれも知りません。逆に、もし正しく法則を理解し、そして楽しみやあるいは欲望といったものが、最終的には自分自身の苦しみになるんだということを理解することができるならば、わたしたちは死に際して平安な心の状態で、次の生へ向かうことができるのです。

これらは諸現象を正しく見つめる目があってこそのこと。そして、もし諸現象を正しく見つめる目があるとするならば、沸騰したお湯を指でかき混ぜるというようなことはしないでしょうね。


指を以て沸けるを撓す
愛する妻や子を残していくのか……
あー 死ぬ前にもう一度北京ダックが食べたかった……
りんねの海をこえるには
もし諸現象を正しく見つめる目があれば……
DEATH DIVE

❖川淵深くして 魚鼈之に帰す

［荀子、致士］ 川淵深而魚鼈帰之、山林茂而禽獣帰之、刑政平而百姓帰之、礼儀備而君子帰之。

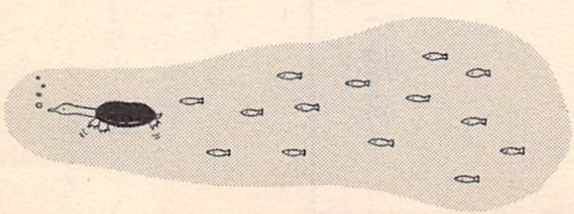
【書き下し文】
川淵深くして魚鼈之に帰し、山林茂りて禽獣之に帰し、刑政平らかにして百姓之に帰し、礼儀備わりて君子之に帰す。

【訳】
川の淵が深ければ魚やスッポンがそこに集まり、山林が茂れば鳥や獣がそこに集まるように、刑罰政治が公平であれば民衆がそこに集まり、礼儀が備われば君子がそこに集

まるのである。

【類句】

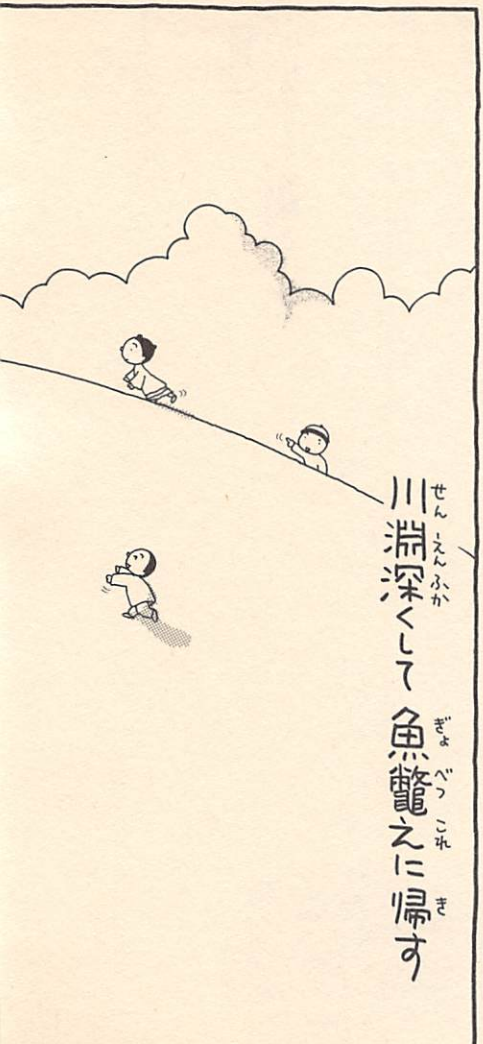
・山林茂りて禽獣之に帰す



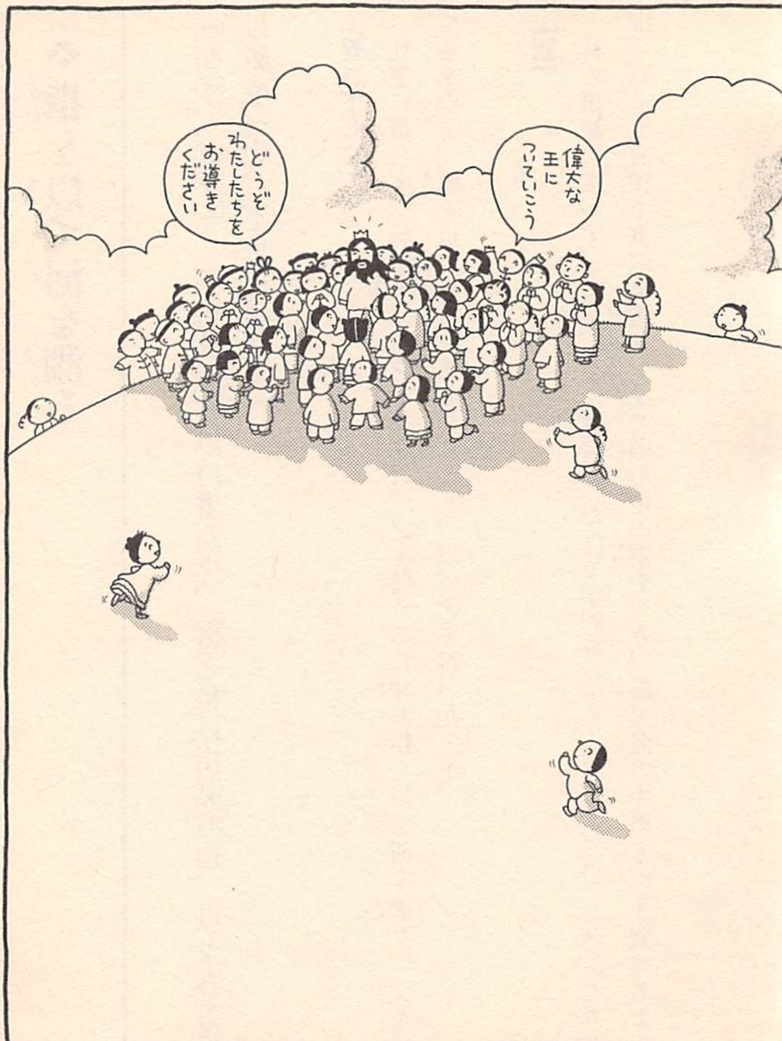
今日の故事成語は「川淵深くして　魚鼈之に帰す」です。

「鼈」とはスッポンのこと。つまり、この成語は、川の淵が深い場合、そこに魚やスッポンが集まって安心して生活するということから、偉大な王のもとには多くの君子や人民が集まることをいっています。確かに広くて肥えた大地があり、そして正しい公正な統治形態を王がとるとするならば、そのもとには多くの人々が集まるはずです。

このような国家が、世界のあちらこちらに存在してほしいものです。



川淵深くして 魚鼈之に帰す



❖指を以て河を測る

〔荀子、勧学〕不道礼憲、以詩書為之、譬之猶以指測河也、以戈舂黍也、以錐飡壷也、不可以得之矣。

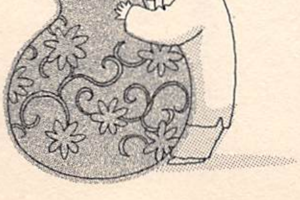
【書き下し文】

礼憲に道らず、詩書を以て之を為すは、之を譬うるに猶お指を以て河を測り、戈を以て黍を舂き、錐を以て壷に飡するがごとく、以て之を得べからず。

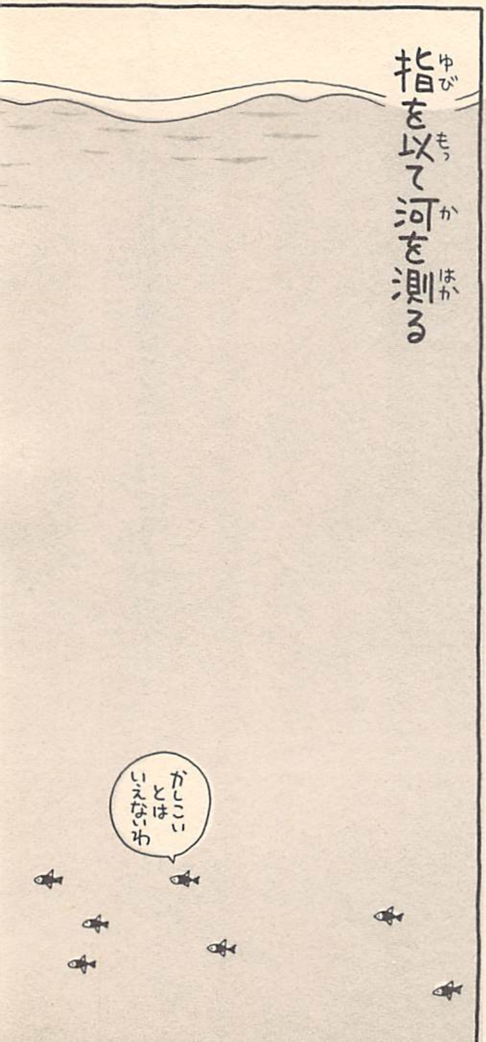
【訳】

礼の規範に従わず、『詩経』や『書経』だけで学問をしようとするのは、たとえてみれば、ちょうど指で黄河を測り、戈で臼の中の黍をつき、錐で壷の中のものを食べるよう

なもので、とても目的を達成することはできないのである。



今日の故事成語は「指を以て河を測る」です。
これは、目的をしっかりとらえず、その目的に見合わない尺度で現象をとらえるとするならば、必ず過ちを犯すことのたとえです。
確かに黄河のような大きい河の幅を指で測ったり、あるいは深さを測ったりしたら、それは不可能ではありませんが大変な作業となり、そして正しく目的が達成されるとはいえませんね。




目的をしっかりと　とらえよう
認識が甘いぞ!
やめなさいっ
それは無謀だヨ
ブツブツ
94
95
96

❖一を以て万を知る

［荀子、非相］ 故曰、「欲観千歳、則数今日、欲知億万、則審一二、欲知上世、則審周道、欲知周道、則審其人所貴君子。」故曰、「以近知遠、以一知万、以微知明、」此之謂也。

【書き下し文】

故に曰く、「千歳を観んと欲すれば、則ち今日を数え、億万を知らんと欲すれば、則ち一二を審かにし、上世を知らんと欲すれば、則ち周道を審かにし、周道を知らんと欲すれば、則ち其の人の貴ぶ所の君子を審かにせよ」と。故に曰く、「近きを以て遠きを知り、一を以て万を知り、微を以て明を知る」とは、此を之れ謂うなり。

【訳】

だから、「千年前のことを示そうとすれば、今日のことを調べる必要があり、億万のことを知ろうとすれば、一、二のことを明らかにすべきであり、上古のことを知ろうとすれば、手近な周の政道を明らかにすべきであり、周の政道を知ろうとすれば、しかるべき人が尊ぶ君子のことを明らかにすべきである」というのである。

昔の言葉に、「近くによって遠くを知り、一によって万を知り、些細なことによって重大な事実を知る」とあるが、このことを言ったのである。



今日の故事成語は「一を以て万を知る」です。

これは「一を聞いて十を知る」ということわざがありますが、発想としては全く同じものということができるでしょう。

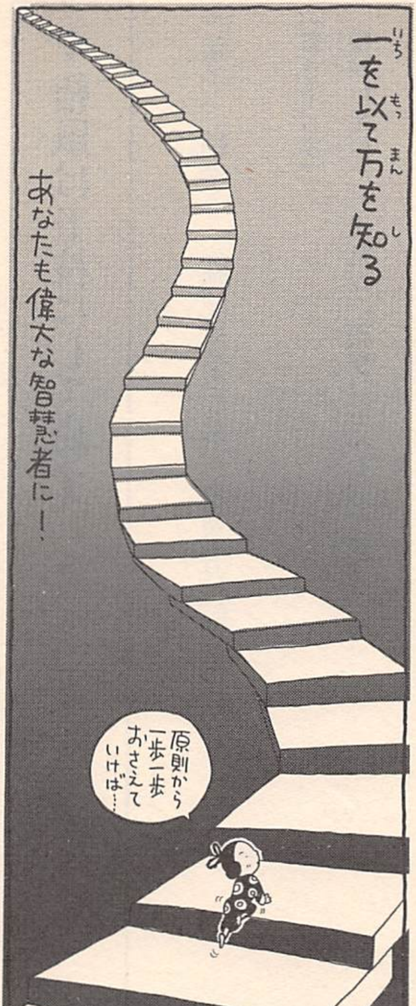
ところで、この荀子の説く「一を以て万を知る」は、わたしたちに大きな示唆を与えてくれます。それはいったいどういうことでしょうか。いかに難解な問題だったとしても、原則をしっかりと押さえていけば、必ず最終地点に到達できる、つまり難解な問題を解決できると説くからです。

もちろんこの考え方には、わたしも同意見です。そしてこの考え方は、仏教やヨーガの最終地点に立つための道筋の、絶対に欠くことのできない思索のポイントであるともいうことができます。つまり、まず自分のわかる問題から徹底的に解明し、そして少しわからない問題へと入っていく。その少しわからない問題が解決できるようになった段階では、中程度のわからない問題は、もうすでに「少しわからない問題」へと移行していることに気づくはずです。

実は、この考え方は、いかに数学的な学問をマスターするかということとも一致して

います。つまり、例えば高校数学が理解できない人は中学の数学がわからないのではなく、足し算や引き算やかけ算や割り算といった原則的な教えが理解されていないがゆえに、高校数学が理解できないのです。

したがって、下から自分の能力をしっかり確かめながら立ち上げていく作業、これをもしあなたが行なうならば、あなたはきっと偉大な智慧を有することになるでしょう。



❖梧鼠は五技にして窮す

［荀子、勧学］　螣蛇無足而飛、梧鼠五技而窮。

【書き下し文】
螣蛇は足無くして飛び、梧鼠は五技にして窮す。

【訳】
螣蛇は足がなくても飛ぶことができるが、ムササビは五つの特技を持ちながらも困窮してしまう。

【注】

・五技——ムササビの五つの特技とは、「①飛ぶことができるが、屋根には上がれない。②よじ登ることができるが、木のてっぺんまでは登れない。③泳ぐことができるが、谷を渡ることはできない。④穴を掘ることができるが、自分を隠すことはできない。⑤走ることができるが、人より速く走れない」というものである。



今日の故事成語は「梧鼠（ごそ）は五技（ごぎ）にして窮（きゅう）す」です。

これは、ムササビが五つの特技を有しているにかかわらず、必ず窮する——、つまり窮地に追い込まれることを表わしています。

もしムササビが一つでも最高の技術を身につけているとするならば、もちろんこのようなたとえに引用されなかったはずです。これは人間の世界においても同じことがいえます。いくら多くのことを趣味でなしていたとしても、その一つ一つが不完全であるとするならば、世の中に受け入れられるはずがありません。

わたしは真理の探究を行なうとき、一つのワードの意味が理解できない場合、そのワードを追究するために多くの仏典や辞典を買い求め、そしてその字義について検討したものです。このような探究の精神は、わたしに真理という最高の教えを体得させてくれました。そして真理に到達した今、例えば他の部門についても、ある程度のことを理解する能力をわたしは得ました。

これは、もしだれかが一つのことを究めるならば、必ずやその究めた意識状態から他のことについても多くの才能が表われるということをも意味しているのではないでしょ

うか。したがって皆さんも、まず一つのことに集中する。そしてその結果が出た後、他のいろいろなことにアプローチしてみてはいかがでしょうか。

そして、これは瞑想の方法とも一致しています。まず一点に集中する。その一点集中が完成した段階で、その集中そのものが多くの現象をとらえる能力を有するとうたわれています。

さあ皆さん、今日から趣味人間から専門家への道を歩きましょう。



❖土(つち)を積(つ)みて山(やま)を成(な)す

［荀子、勧学］　積土成山、風雨興焉、積水成淵、蛟竜生焉、積善成徳、而神明自得、聖心備焉。

【書き下し文】

土を積みて山を成(な)さば、風雨興(おこ)り、水を積みて淵(ふち)を成さば、蛟竜(こうりゅう)生じ、善を積みて徳を成さば、神明(しんめい)自得(じとく)し、聖心(せいしん)備わる。

【訳】

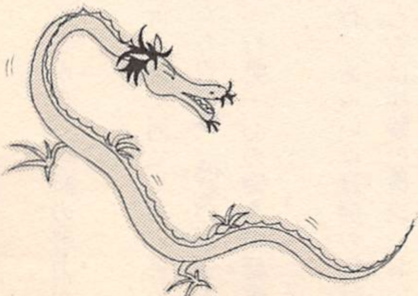
土が積もって高い山になると、そこに風雨が起こり、水が集まって深い淵になると、そこに蛟竜(みずち)が住み着くように、人間も善を積み重ねて徳を身につければ、神明(しんめい)が自然と

得られ、聖人の心が備わるようになる。

【類句】

・土(つち)積(つ)もれば山(やま)と成(な)る

・塵(ちり)積(つ)もりて山(やま)と成(な)る



今日の故事成語は「土を積みて山を成す」です。

これは、小さな量の土でも日々積み重ねていけば山ができることから、不断の努力が結果を出すたとえです。

ところで、この考え方は、仏教の「経験の構成」という考え方と全く同じであるということができます。この経験の構成とは何かというと、わたしたちの肉体、感覚、イメージ、そしてその奥にある、わたしたちが日々行なっている言葉・行動・心の働きが経験として蓄積され、構成されることを表わしているのです。

したがって、もしわたしたちが真理に基づいた善行や徳の修行、あるいは寂静の修行を、言葉・行為・心の働きにおいてなし続けるならば、わたしたちは経験の構成において、その集積が神々の状態になるわけです。

つまり、土イコールわたしたちの善行・徳行・寂静の修行、そしてそれが山となったとき、わたしたちは神々の意識と変わるのです。

さあ皆さんも今日から小さな土を積むこと、つまり善行・徳行、そして寂静の修行を行なおうではありませんか。


土を積みて山を成す
天まで とどけ
善行、徳行、寂静の
修行を 積み上げよう

❖鉤に須有り

［荀子、不苟］　山淵平、天地比、斉秦襲、鉤有須、卵有毛。是説之難持者也。而恵施・鄧析能之。然而君子不貴者、非礼儀之中也。

【書き下し文】

山淵は平らかに、天地は比しく、斉秦は襲り、鉤に須有り、卵に毛有り。是れ説の持し難き者なり。而して恵施・鄧析之を能くす。然り而して君子の貴ばざるは、礼儀の中に非ざればなり。

【訳】

「山と淵とは平らで、天と地との高さは等しい」とか、「斉の国と秦の国が同じ場所に

ある」とか、「釣針には魚のえらがある」とか、「卵に毛がある」とかいった詭弁は、なかなか固持し難い言説であるが、恵施や鄧析はこれをなすことができた。しかしながら、君子がそれを貴ばないのは、礼儀の中道を得たものではないからである。

【注】

・恵施――戦国時代、宋の政治家・思想家。名家の一人。

・鄧析――春秋時代、鄭の大夫。



今日の故事成語は「鉤に須有り」です。

これは、ある人が魚を釣るとして、その魚が釣り上げられる。そうすると、結局魚が釣り上げられているのだから、その針はえらを釣り上げたのと同じであるという詭弁論についての荀子の見解です。

この詭弁論は、仏典においてもまさに全く無意味であると説かれています。そして、荀子も同じように、全く人に利益をなさないものは無意味であるという立場から、このことわざを価値のないたとえとして使っているのです。

確かにわたしたちは、それぞれが一人一日二十四時間を与えられています。しかし、もしこの二十四時間の使い方を誤るとするならば、つまり詭弁論のような全く価値のないものに費やすとするならば、わたしたちの人生はあっという間に終わり、そして来世は悲惨な状態になるでしょう。

したがって、価値のあること、特に自分自身に本当に利益になる真理の実践について、皆さんはこれから日々少しずつ時間を使い、考えてみたらいかがでしょうか。それによって多くの利益があるはずです。

最後に、この詭弁と関係ある「綺語(きご)」を真理の教えでは徹底的に戒めています。綺語とは、全く必要のない軽薄な言葉を指します。さあ、これから言葉の統御を行ない、そしてより幸福な人生を歩こうではありませんか。



❖白刃胸を扞せば、流矢を見ず

〔荀子、彊国〕　堂上不糞、則郊草不瞻曠芸。白刃扞乎胸、則目不見流矢。抜戟加乎首、則十指不辞断。非不以此為務也、疾養緩急之有相先者也。

【書き下し文】

堂上糞せざれば、則ち郊草曠芸を瞻ず。白刃胸を扞せば、則ち目流矢を見ず。抜戟首に加うれば、則ち十指も断ずるを辞せず。此を以て務を為さざるに非ず、疾養緩急の相先んずる者有ればなり。

【訳】

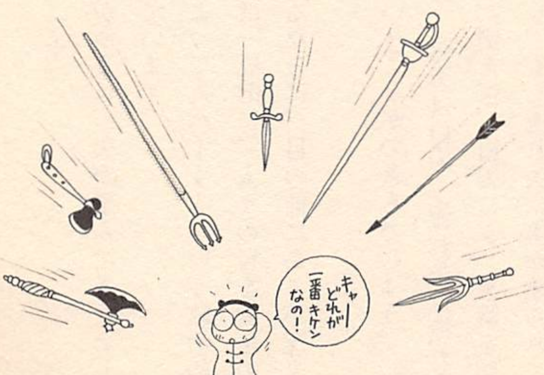
家の中が掃除されていなければ、野外の草を刈り取ることなど考えない。白刃が胸に

迫ってくれば、流れ矢などは目に入らない。抜き身の戟が頭に当てられれば、十本の指が断ち切られることなどいとわない。それらを問題にしないというわけではないが、物事には、痛みとかゆみ、余裕のあることと差し迫ったことというような、先にしなければならないことがあるからである。

【類句】

・白刃前に交われば、流矢を顧みず

・白刃前に交われば、流矢を救わず



今日の故事成語は「白刃（はくじん）胸（むね）を扞（おか）せば、流矢（りゅうし）を見（み）ず」です。

これは人に刃（やいば）が突きつけられたとき、その恐怖なるがゆえに、矢が飛んできたとしても、それに対しては心があまり動かないことを表わしています。

この心の働きを利用したのが、内政の乱れを外交によってカバーするという政治的手腕です。そして国内が最悪の状態になったとき、国家は一般的に、人々の目を戦争の方へと向けさせます。つまり、戦争という大難を前にするならば、目の前にある不況も忘れてしまうということから、この方法を採るのです。

これらの方法は、確かに一時的に効果を出すものということができるでしょう。しかし、もし現象の本質を理解する目があるとするならば、白刃は白刃、流れ矢は流れ矢、しっかりと処理するべきであるということができます。例えば、白刃によって腕を切り落とされたとしても、生命に別状はありません。しかし、もし流れ矢に毒が塗られていたらどうでしょうか。

さあ、皆さんは今日これから、何が大事で何が小事なのかをしっかり見極める目を養ってください。そのお手伝いがわたしにできるとするならば幸いです。


オッ
なかなか‥‥
現象の
本質を理解し
しっかりと処理するべき！
白刃胸を扞せば流矢を見ず
カキーン
ハッ
どうだ

❖木は縄を受くれば則ち直く、金は礪に就けば則ち利し

［荀子、勧学］　木直中縄、輮以為輪、其曲中規、雖有槁暴、不復挺者、輮使之然也。故木受縄則直、金就礪則利。君子博学、而日参省乎己、則智明而行無過矣。

【書き下し文】
木の直きは縄に中るも、輮めて以て輪と為さば、其の曲なること規に中り、槁暴有りと雖も、復た挺せざるは、輮之をして然らしむるなり。故に木は縄を受くれば則ち直く、金は礪に就けば則ち利し。君子博く学びて、日に己を参省すれば、則ち智明かにして行い過ち無し。

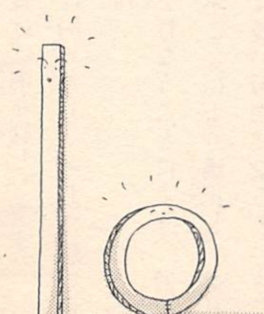
【訳】

墨縄（すみなわ）にぴったりの真っすぐな木も、曲げ、たわめて輪にすれば、コンパスにぴったりするほど丸くなり、完全に乾いてしまってからも、二度と真っすぐにはならない。これは、曲げ、たわめたことによってそうなったのである。

したがって、木は墨縄に当てて削れば真っすぐになり、金属は砥石（といし）にかけて磨けば鋭くなり、君子は広く学んで日々何度も反省すれば、智慧（ちえ）は明らかになり、行動にも過ちがなくなるのである。

【類句】

・木（き）縄（なわ）に従（したが）えば則（すなわ）ち正（ただ）し



今日の故事成語は「木は縄を受くれば則ち直く、金は礪に就けば則ち利し」です。

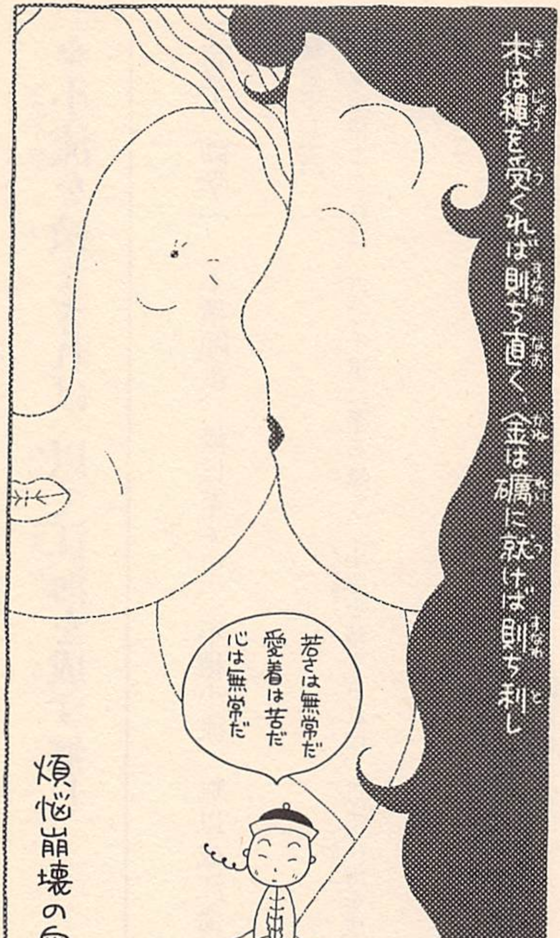
これは、黒縄にぴったりの真っすぐな木も曲げて輪にすれば円くなり、そして鈍い金属も砥石で削ることによって鋭い刃物になるというたとえです。

これは、もともと人間は煩悩の固まりであり、そして学問を行なうことにより、何をなせば利益になり、何をなさなければ不利益になるのかを学ぶことにより矯正し、それによって木やあるいは鈍い金属から、真っすぐな木、あるいは鋭い刃物になるということを比喩として表現しているわけです。

しかし、これらの荀子の考え方は、わたしには中途半端のように思われます。それは、もともと学問というものは、わたしたちの表層意識にしか影響を与えず、潜在意識のコントロールをすることはできないからです。

これに対して、真理では「記憶修習」および「思索」を説きます。つまり、ある煩悩に対して、それと反対の想念を徹底的に入れ、そして意識状態において、もともとの煩悩と新たに記憶したものがフィフティ・フィフティになったとき、そこから思索を始め、そして煩悩を崩壊させるという瞑想手段です。

そして、これをもしあなたがなすことができるならば、数年であなたは煩悩なき平安の状態に至ることができるはずです。



❖小流を積まざれば、以て江海を成す無し

［荀子、勧学］　不積蹞歩、無以至千里、不積小流、無以成江海。

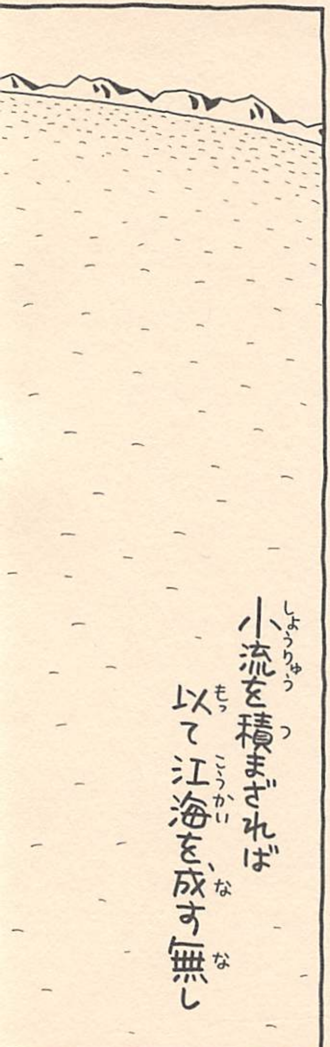
【書き下し文】
蹞歩を積まざれば、以て千里に至る無く、小流を積まざれば、以て江海を成す無し。

【訳】
一歩一歩と積み重ねていかなければ、千里の遠方に行き着くことはできないし、小さな流れの水が集まらなければ、大きな川や海になることはできない。

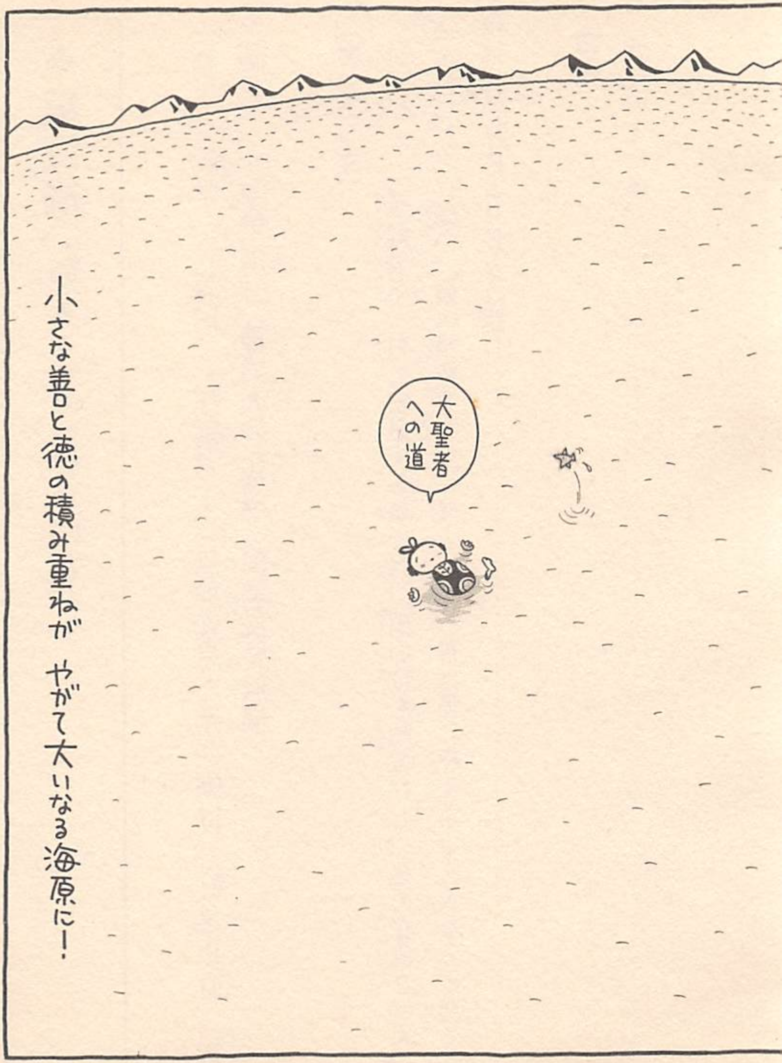
小流を積まざれば、以て江海を成す無し



今日の故事成語は、「小流を積まざれば、以て江海を成す無し」です。
つまりこれは、仏典にも記載されていることですが、まず山の小さな割れ目に水がたまると。そしてその割れ目の水が集合し、小さな川になると。そしてそれが徐々に徐々に大河となり、そして海に流れ込み、大海を形成すると。これと同じように、もしわたしたちが小さな善行や徳行を積み続けないとするならば、その大いなる海、つまり偉大な功徳、あるいは大聖者への道は達成できないと荀子は説いています。
これはまさに仏教的史観であるということができます。そして、この原則以上の原則は存在しません。したがって、皆さんも今日これから、皆さんの積める善行、徳の修行、そして寂静の修行を行なおうではありませんか。



小流を積まざれば、以て江海を成す無し



❖福は禍い無きより長きは莫し

［荀子、勧学］　詩曰、「嗟爾君子、無恒安息、靖共爾位、好是正直、神之聴之、介爾景福。」神莫大於化道、福莫長於無禍。

【書き下し文】
詩に曰く、「嗟爾君子、恒に安息する無かれ、爾の位を靖共にし、是の正直を好み、之を神にし之に聴い、爾の景福を介いにせよ」と。神は道に化するより大なるは莫く、福は禍い無きより長きは莫し。

【訳】
詩にいうには、

「ああ、なんじ君子たちよ、常に安息していてはいけない。
自分の立場を静かに慎み、正直の徳を好み、
神（しん）にして聴き従い、自分の大きな幸福をさらに大きくせよ」と。
神（しん）とは道に同化することより大きなものはなく、幸福とは災難がないことより優れたものはない。

【注】

・詩——出典は、『詩経』小雅・小明。



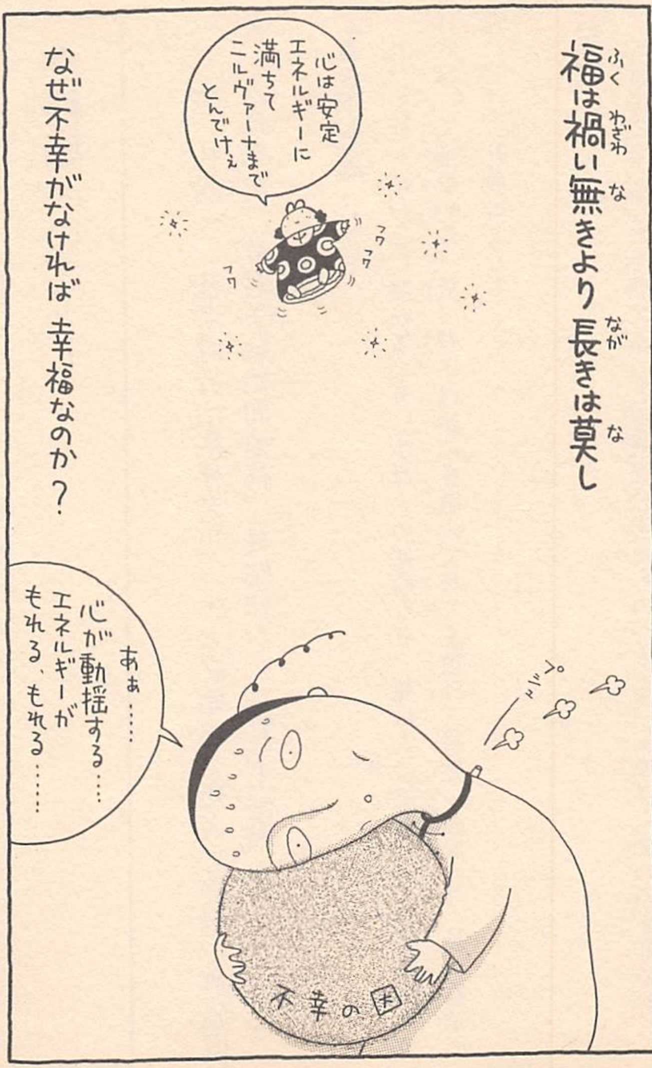
今日の故事成語は、「福は禍い無きより長きは莫し」です。

この「長い」は「長所」の「長」に見られるように、「優れた」という意味です。つまり、災いなきことこそ本当の幸福であると荀子は説きます。

これは明らかに、荀子が仏教的土台を有していた魂であることを表わしています。そして大完全煩悩破壊の世界――、つまり真我の独存位は、これに加え、絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜という三つの様態を備えるのです。

ではなぜ、不幸がなければ幸福なのでしょうか。それは、もともとわたしたちの心の不安定さは不幸を因とします。そして、その不幸の因がないこと、それはわたしたちが最もエネルギーを漏らさない心の状態でいられることを表わしているわけです。つまり、心の動揺のない状態ということがいえます。そして、その延長上にニルヴァーナが存在することはいうまでもありません。

この境地を知り得ていた荀子――、わたしは彼を尊敬せずにはいられないのです。


福は禍い無きより長きは莫し
心は安定 エネルギーに 満ちて ニルヴァーナまで とんでけぇ
フワ フワ フワ
なぜ不幸がなければ 幸福なのか？
あぁ…… 心が動揺する…… エネルギーが もれる、もれる……
不幸の困

❖終始一（しゅうしいっ）のごとし

［荀子、礼論］　礼者謹於治生死者也。生人之始也。死人之終也。終始倶善、人道畢矣。故君子敬始而慎終、終始如一。是君子之道、礼義之文也。

【書き下し文】

礼は生死を治（おさ）むるに謹（つつし）む者なり。生は人の始めなり。死は人の終りなり。終始倶（とも）に善ければ、人道畢（お）わる。故（ゆえ）に君子（くんし）は始めを敬（つつし）みて終りを慎（つつし）み、終始一（いっ）の如（ごと）し。是（こ）れ君子の道にして、礼義の文なり。

【訳】

礼は出生と死亡とを整えることを厳粛にするものである。出生は人生の始まりであり、

死亡は人生の終わりである。始まりと終わりが共に立派であれば、人道が完成したことになる。したがって、君子は始まりを恭敬し、終わりを慎重にし、始まりも終わりも同一であるようにする。これが君子の道であり、礼義の修飾である。



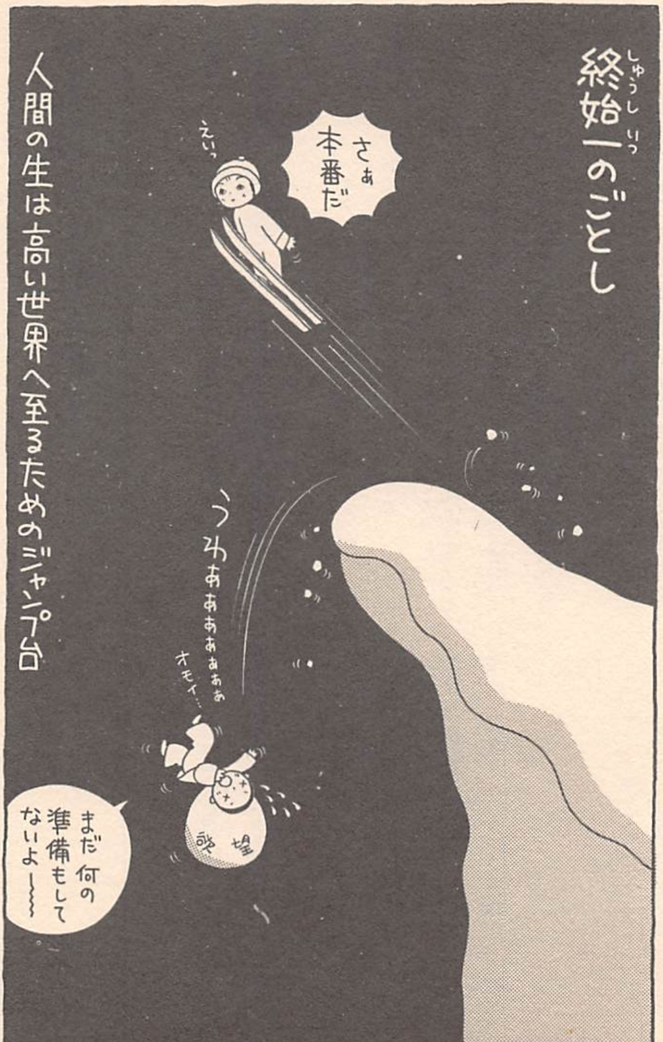
今日の故事成語は、「終始一（しゅうしいっ）のごとし」です。

これは、初めを大切にするのと同じように、終わりも大切にしなさいという意味のことわざです。

確かにわたしたちは、生――、つまり生まれることを大切にします。しかし、徐々に成長し、そして大きくなるにつれ、わたしたちは生の意味を考えなくなります。そして、目先にあるいろいろな欲望にとりつかれ、その結果として最終的には死の苦しみを経験しなければならないのです。

もしわたしたちが生の意味を知り、例えば人間界における生の意味は、最高のジャンプの土台であると、高い世界へ至るためのジャンプ台こそこの人間の生であるということを理解し、それを死ぬまで考え、実践し続けるならば、この人間の生というものはわたしたちに大きな利益を与えてくれるでしょう。

そして皆さんが、今日これから、今から、自分の生存した意義を考え、そして死に対する準備をひたすらなさるならば、それはわたしの最高の称賛するところとなることでしょう。


終始一のごとし
さぁ本番だ
えいっ
うわああああああ
オモイ…
欲望
まだ何の準備もしてないよ〜〜〜。
人間の生は高い世界へ至るためのジャンプ台

❖彊は自ら柱を取る

［荀子、勧学］　物類之起、必有所始。栄辱之来、必象其徳。肉腐生虫、魚枯生蠹、怠慢忘身、禍災乃作。彊自取柱、柔自取束、邪穢在身、怨之所構。

【書き下し文】
物類の起るや、必ず始まる所有り。栄辱の来るや、必ず其の徳に象う。肉腐りて虫を生じ、魚枯れて蠹を生じ、怠慢身を忘れて、禍災乃ち作る。彊は自ら柱を取り、柔は自ら束を取り、邪穢身に在らば、怨みの構うる所なり。

【訳】

物事が起こるのには、必ずその原因がある。栄誉と恥辱が訪れるのは、必ずその人の徳に応じるものである。肉が腐ると虫がわき、魚が干からびるとキクイムシがわくように、人間も怠慢でわが身を忘れてしまうと、そこで災禍が生じる。堅い木はその性質ゆえに切られて柱にされ、軟らかい木はその性質ゆえに曲げて束ねられる。その身によこしまなけがれがあれば、他人の恨みを買うことになる。



今日の故事成語は、「彊は自ら柱を取る」です。

これは、堅い木はその木の性質によって柱として用いられ、逆に柔軟な柔らかいバネのある木は、弓の材料として用いられる。つまり、才能あるがゆえに苦しまなければならないたとえを表わしています。

この故事成語のたとえは、現代でもよく用いられます。例えば、ある達筆な人がいたと。そしてその人は会社に勤め、達筆なるがゆえにいろいろなあて名書き等で使われ、それによって出世することができなかった等が、このたとえに当たると考えられるでしょう。

では才能のある場合、それをどのようにしたら活かすことができるのでしょうか。そこで必要なのが徳なのです。つまり、その才能をいかに自分自身の幸福のために使えるかどうか、それはその人に徳が存在しているかどうかということと同義なのです。

したがって、皆さんは才能を磨くと同時に、徳の実践、そして善の実践を行ないましょう。それによって、皆さんには多くの幸福が待っているはずです。


彊は自ら柱を取る
才能を活かす決め手は〝徳〟です
才能を磨き、善と徳の実践を行なおう！

❖大巧は為さざる所に在り

［荀子、天論］　聖人清其天君、正其天官、備其天養、順其天政、養其天情、以全其天功。如是則知其所為、知其所不為矣。則天地官而万物役矣。其行曲治、其養曲適、其生不傷、夫是之謂知天。故大巧在所不為、大智在所不慮。

【書き下し文】

聖人は其の天君を清くし、其の天官を正しくし、其の天養を備え、其の天政に順い、其の天情を養いて、以て其の天功を全くす。是の如くんば則ち其の為す所を知り、其の為さざる所を知る。則ち天地官して万物役せらる。其の行曲に治まり、其の養曲に適し、其の生傷わず、夫れ是を之れ天を知ると謂う。故に大巧は為さざる所に在り、大智は慮

らざる所に在り。

【訳】

聖人はその天君である心を清らかにし、その天官である感覚器官を正しくし、その天養である飲食衣服を整備し、その天政である自然の政令を順守し、その天情である感情を育成して、その天功である自然の働きを完全にする。このようであれば、人のしなければならないことを知り、してはならないことを知るのである。そこで、天地もそれぞれの職分を遂げ、万物も利用されるのである。その行なう所は細部までよく治まり、その養う方法は細部まで適切であり、生命を傷つけることがない。そもそも、こういうことを天を知るというのである。

したがって、最上の巧妙さは小細工を弄（ろう）しないところにあり、最上の智慧は思慮を働かさないところにある。

今日の故事成語は、「大巧は為さざる所に在り」です。
この「大巧は為さざる所に在り」、これはわたしの人生訓でもあります。
日本には多くの宗教が存在しています。そして、その宗教のほとんどは現世利益をうたいます。しかし、わたしは現世利益を好みません。なぜならば、もし真理の法則が絶対であるとするならば、必要かつ十分な分は、自分自身の日々の言葉や行動や心の働きの善・徳・寂静の実践によって必ず返ってくると確信しているからです。
そして、そのような小さなものを目標とするのではなく、自己の完成、個の完成を目指すことこそ、最高の宗教であると考えます。そして、個の完成をなした後、その利益をすべての魂に還元すること、これはより優れた、最高の人生ではないでしょうか。そして、この考え方こそが、小乗・大乗の考え方の根底をなすものなのです。
さあ、あなたも小さな喜びに目を向けるのではなく、本質的な喜び、本質的な幸福に目を向けようではありませんか。


最高の
人生とは……
救済
自己を
完成させた後
その利益を
すべての魂に
還元します
大巧は為さざる所に在り

❖居は必ず郷を択ぶ

［荀子、勧学］　蓬生麻中、不扶而直。蘭槐之根、是為芷。其漸之滫、君子不近、庶人不服。其質非不美也、所漸者然也。故君子居必択郷、遊必就士、所以防邪僻而近中正也。

【書き下し文】

蓬麻中に生ずれば、扶けずして直し。蘭槐の根、是を芷と為す。其の之を滫に漸さば、君子も近づけず、庶人も服せず。其の質美ならざるに非ざるなり、漸す所の者然るなり。故に君子は居は必ず郷を択び、遊べば必ず士に就くは、邪僻を防ぎて中正に近づく所以なり。

【訳】

曲がった蓬（よもぎ）も麻の中に生えると、支えがなくても真っすぐになる。蘭（らん）や槐（えんじゅ）の根は香料となるが、もし尿にひたせば、君子もそばに近づけないし、庶民も身につけようとしない。これは、その本質が良くないというのではなく、ひたされていたものがそうさせたのである。

したがって、君子が必ず環境のよい所を選んで住み、必ず賢士について交際するのは、邪悪に流れるのを防ぎ、中正に近づこうとするためなのである。

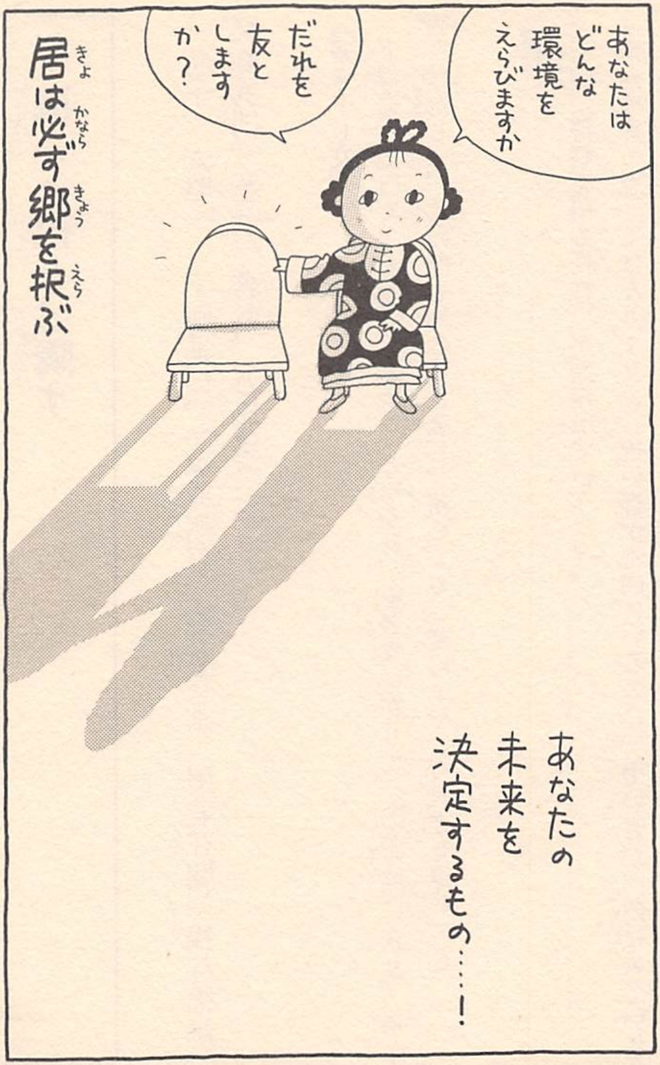


今日の故事成語は「居(きょ)は必(かなら)ず郷(きょう)を択(えら)ぶ」です。この居とは住まいのことであり、郷とは住み心地のいい環境という意味です。

この成語には深い意味があります。つまり君子たる者——ここでいう君子とは聖人と考えてください——聖人たる者はまず生活に適した場所を選ぶ。つまり思索に適する、あるいは瞑想に適する、あるいは学問に適する場所を選ぶ。そして次に、良き師、つまり良き友を選ぶ。これは自分自身の瞑想が熟達できるように、あるいは自分自身の思索が発達するように、あるいは自分自身の学問が増大するように友を選ぶという意味です。

確かに住まいが快適であり——この快適という意味は自分自身を成長させる上において快適であり、しかも友が素晴らしければ、その魂は未来において偉大な魂に成長することは間違いありません。

さあ、皆さんはだれを友としますか? 何を学びますか? そしてどのような環境で生活したいと思いますか? それによって皆さんの未来は決定されるのです。しっかり選択しましょう。


あなたはどんな環境をえらびますか
だれを友としますか？
居(きょ)は必(かなら)ず郷(きょう)を択(えら)ぶ
あなたの未来を決定するもの……！

❖禍(わざわ)いと福(ふく)とは隣(となり)す

［荀子、大略］　下卿進曰、「敬戒無怠。慶者在堂、弔者在閭。禍与福鄰、莫知其門。務哉、務哉、万民望之。」

【書き下し文】

下卿(かけい)進みて曰(いわ)く、「敬戒(けいかい)して怠ること無(な)かれ。慶者堂(けいしゃどう)に在(あ)りて、弔者閭(ちょうしゃりょ)に在り。禍(か)と福(ふく)とは鄰(となり)して、其(そ)の門を知ること莫(な)し。務めよや、務めよや、万民之(これ)を望む」と。

【訳】

下卿(かけい)（警察を司る長官）が進み出ていうには、

「慎み戒めて怠ってはなりません。祝い客が堂内にいるのに、弔い客が門口(かどぐち)に来ていま

す。このように災難と幸福とは隣り合っていて、どれが災難の門でどれが幸福の門であるかは判別できません。どうぞしっかりとお務めください。これこそ万民の待望するところです」と。

【類句】

・禍福(かふく)は糾(あざな)える縄(なわ)のごとし

・禍福倚伏(かふくいふく)



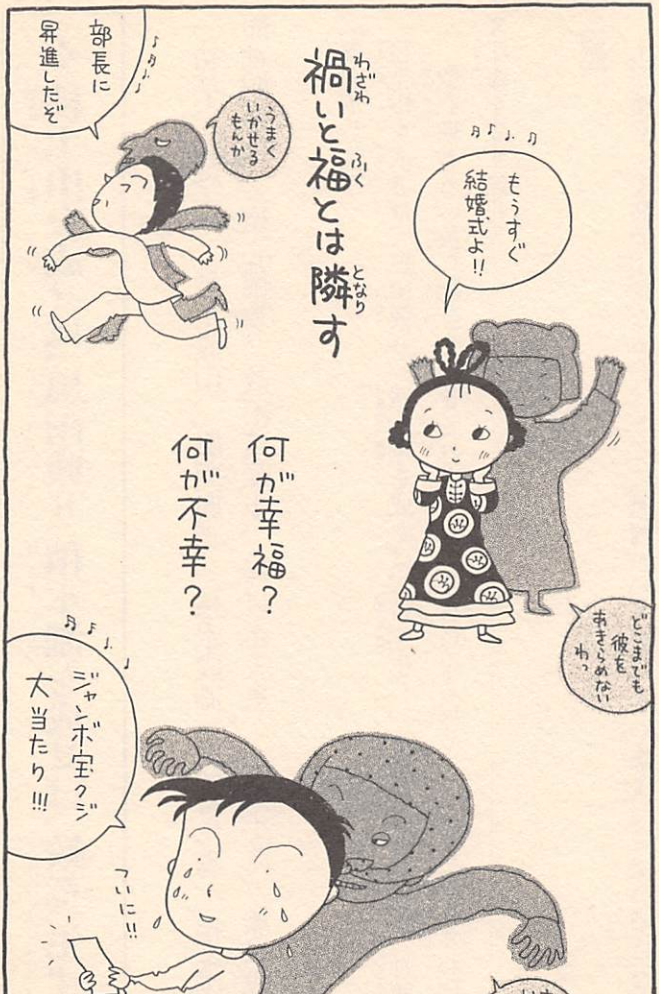
今日の故事成語は「禍いと福とは隣す」、つまり、災いと福とは絶えず隣り合わせであるというたとえです。

確かにこの言葉は深遠な意味があります。つまり、いろいろな現象も角度を変えて見るならば、確かに災いが福と変わったり、あるいは福が災いと変わるのです。

例えば現代の生活を見てみましょう。わたしたちは食事が満足できるように与えられ、そして性的にも満足な環境が与えられ、そして生活の空間、例えば衣服、あるいは乗り物、住居等も、ある程度満足のいく条件が与えられています。しかし、これらの条件はわたしたちの「努力する」という精神を阻害します。それによって、日本は今のままいくならば、必ず未来において衰退するのです。

これからもわかるとおり、必ずしも、今幸福だからそれでいいとはいえないのです。そして、何が幸福で何が不幸なのか、これを見極める力を身につける教え、これこそが真理なのです。

さあ皆さん、真理をしっかり実践しましょう。


禍いと福とは隣す
わざわ
ふく
となり
もうすぐ結婚式よ!!
どこまでも彼をあきらめないわっ
部長に昇進したぞ
うまくいかせるもんか
何が幸福?
何が不幸?
ジャンボ宝クジ大当たり!!!
ついに!!
さっそくいただきます

❖積土山を成せば、風雨興り、積水淵を成せば、蛟竜生ず

［荀子、勧学］　積土成山、風雨興焉、積水成淵、蛟竜生焉、積善成徳、而神明自得、聖心備焉。故不積蹞歩、無以至千里、不積小流、無以成江海。

【書き下し文】
積土山を成さば、風雨興り、積水淵を成さば、蛟竜生じ、積善徳を成さば、神明自得し、聖心備わる。故に蹞歩を積まざれば、以て千里に至る無く、小流を積まざれば、以て江海を成す無し。

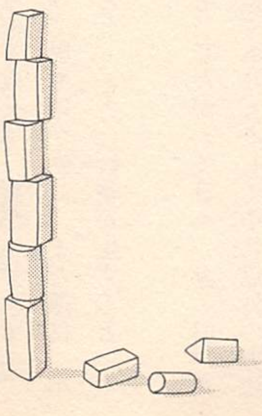
【訳】
土が積もって高い山になると、そこに風雨が起こり、水が集まって深い淵になると、

そこに蛟竜（みずち）が住み着くように、人間も善を積み重ねて徳を身につければ、神明（しんめい）が自然と得られ、聖人の心が備わるようになる。

つまり、一歩一歩と積み重ねていかなければ、千里の遠方に行き着くことはできないし、小さな流れの水が集まらなければ、大きな川や海になることはできない。

【類句】

・積水淵（せきすいふち）を成（な）す



今日の故事成語は「積土山を成せば、風雨興り、積水淵を成せば、蛟竜生ず」です。

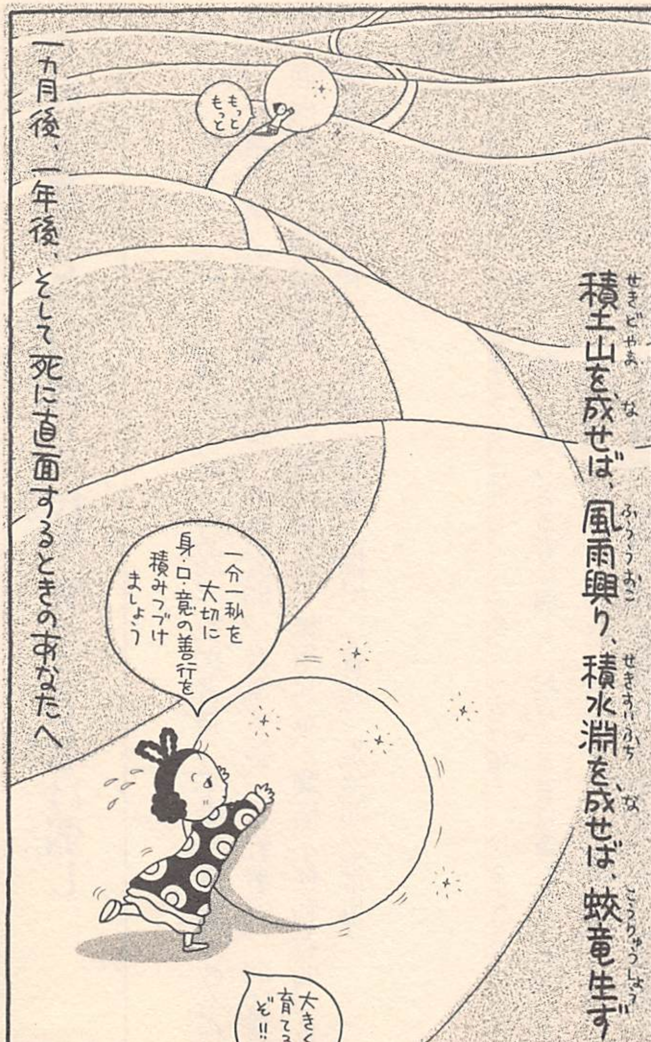
これは、小さな土の積み重ねによって生じた山によって風や雨が生じ、また逆に、小さな水がどんどんためられ、そしてそれが深い水になると、そこに蛟竜が生ずるという意味です。

ところで、この考え方は「すべては経験の構成である。したがって日々、身・口・意における善行を積み上げること、これこそが天へ至る道であり、そしてそれ以外の方法は存在しない。そしてそれによってのみ高い世界の経験ができる」と説く、サキャ神賢のテーラヴァーダの教えとまさに一致します。

わたしたちは、それぞれ二十四時間という時間を与えられています。この二十四時間の一分一秒を大切にし、もし身の行ない・言葉・心の働きを統御し、そして法則にかなった生き方をすることができるならば、確かに、これから一カ月後、一年後、あるいは死ぬ間際に至った段階で、大きな個々の差が生じてくるはずです。そしてそれをバックアップする教え、それこそが真理なのです。

さあ皆さん、今日から皆さんの経験の構成を神々の経験の構成に変えましょう。

積土山を成せば、風雨興り、積水淵を成せば、蛟竜生ず



❖民を愛する者は彊く、民を愛せざる者は弱し

［荀子、議兵］　好士者彊、不好士者弱。愛民者彊、不愛民者弱。政令信者彊、政令不信者弱。民斉者彊、不斉者弱。賞重者彊、賞軽者弱。刑威者彊、刑侮者弱。械用兵革、攻完便利者彊、械用兵革、窳楛不便利者弱。重用兵者彊、軽用兵者弱。権出一者彊、権出二者弱。是彊弱之常也。

【書き下し文】

士を好む者は彊く、士を好まざる者は弱し。民を愛する者は彊く、民を愛せざる者は弱し。政令信なる者は彊く、政令信ならざる者は弱し。民斉える者は彊く、斉わざる者は弱し。賞重き者は彊く、賞軽き者は弱し。刑威ある者は彊く、刑侮なる者は弱し。械用兵革の攻完にして便利なる者は彊く、械用兵革の窳楛にして便利ならざる者は弱し。

兵を用うるを重んずる者は彊く、兵を用うるを軽んずる者は弱し。権一（けんいつ）に出（い）づる者は彊く、権二に出づる者は弱し。是（こ）れ彊弱（きょうじゃく）の常（じょう）なり。

【訳】

君主が賢士を好む国は強く、賢士を好まない国は弱い。君主が人民を愛する国は強く、人民を愛さない国は弱い。政治上の命令が信頼される国は強く、政治上の命令が信頼されない国は弱い。人民が統一されている国は強く、統一されていない国は弱い。恩賞を重視する国は強く、恩賞を軽視する国は弱い。刑罰に威厳のある国は強く、刑罰を軽侮する国は弱い。機械や兵器がよく整備されて使用しやすい国は強く、機械や兵器が粗悪でゆがんで使用しにくい国は弱い。軍隊を慎重に動かす国は強く、軍隊を軽率に動かす国は弱い。権力が集中している国は強く、権力が分散している国は弱い。これが強弱の常道です。

今日の故事成語は「民を愛する者は彊く、民を愛せざる者は弱し」です。

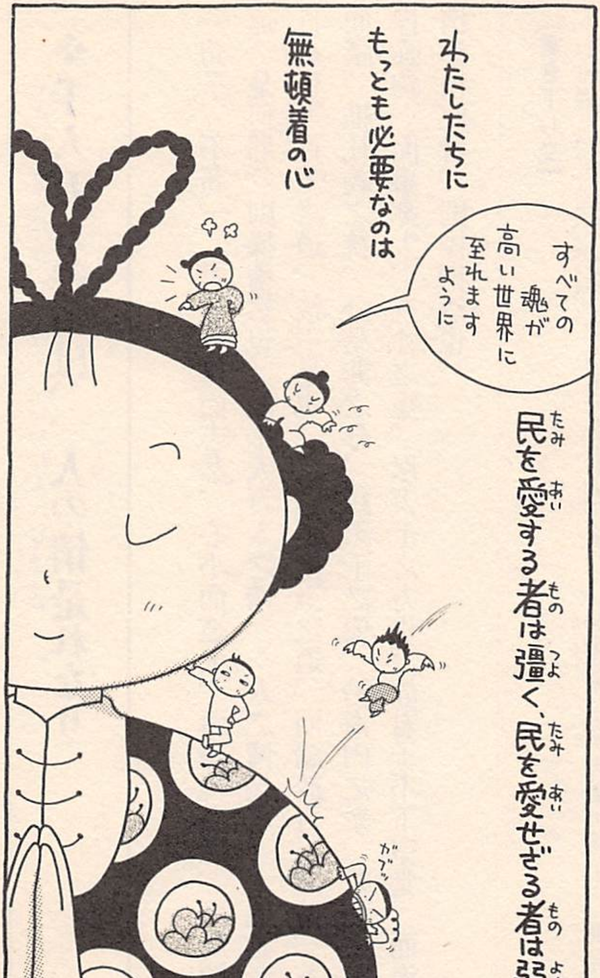
確かにこの言葉は真理の一面を突いています。しかし、例えばサキャ神賢の輪廻転生談などにおいては、民を愛していても国を追われた場面が何度となく登場します。これは何を意味しているのでしょうか。

それは、確かに民を愛した方が愛さないよりも強いけれども、また民の状態を理解していた方が理解していないよりも強いけれども、しかし、それよりももっと大きな力が人生には働いているんだということです。それがカルマの法則です。

したがって、慈愛は真理の実践のわずか一パートにすぎません。しかし、もちろんこの一パートを実践するならば、例えばイエス・キリストのような偉大な聖者となることができますし、また多くの人から敬愛される人生を送ることができることは事実です。

そして、最もわたしたちにとって必要なのは何か――、それは無頓着なのです。つまり、自分はただひたすら周りに対して慈愛を投げかけ、あるいは哀れみを投げかけ、しかもそれによって見返りを求めない心、もしこれを達成することができるならば、あなたはたとえ今生は苦しい人生であったとしても、来世は素晴らしい人生が待っているは

ずです。


すべての魂が高い世界に至れますように
民を愛する者は彊く、民を愛せざる者は弱し
わたしたちにもっとも必要なのは無頓着の心
ガブッ

❖千人万人の情は、一人の情是れなり

［荀子、不苟］　君子位尊而志恭、心小而道大、所聴視者近、而所聞見者遠。是何邪。則操術然也。故千人万人之情、一人之情是也。天地始者、今日是也。百王之道、後王是也。君子審後王之道、而論於百王之前、若端拝而議。推礼義之統、分是非之分、総天下之要、治海内之衆、若使一人。故操弥約、而事弥大、五寸之矩、尽天下之方也。故君子不下室堂、而海内之情挙積此者、則操術然也。

【書き下し文】

君子位尊きも志は恭に、心小なるも道は大に、聴視する所の者近きも、聞見する所の者は遠し。是れ何ぞや。則ち操術然らしむるなり。故に千人万人の情は、一人の情是

れなり。天地の始めなる者は、今日是れなり。百王の道は、後王是れなり。君子後王の道を審らかにして、百王の前を論ずること、端拝して議するが若し。礼義の統を推し、是非の分を分ち、天下の要を総べ、海内の衆を治むること、一人を使うが若し。故に操は弥〻約にして、事は弥〻大に、五寸の矩も、天下の方を尽すなり。故に君子室堂を下らずして、海内の情挙此に積まる者は、則ち操術然らしむるなり。

【訳】

君子は地位が貴くても志は慎み深く、細心であってもその道は大きく、見聞きするものが身近なものであっても、その見聞は遠くまで及ぶ。これはどういうわけか。それは、操守の方法によってそうなるのである。

つまり、千人万人の性情も一人の性情と同じであり、天地の初めというものも今日のものと同じであり、多くの王が行なってきた道も現在の王の道と同じである。

そこで、君子は現在の王の道を明らかにしてから、過去の多くの王を論じるので、あたかも端然として腕組みして議論するようなものなのである。礼義のもとを推量し、是

非の区別を分別してから、天下の枢要を総括し、国内の民衆を統治するので、あたかも一人の人間を使うようなものなのである。つまり、操守することはますます簡約でありながら、その効果はますます大きく、わずか五寸の定規で世界中の面積を測ることができるのである。

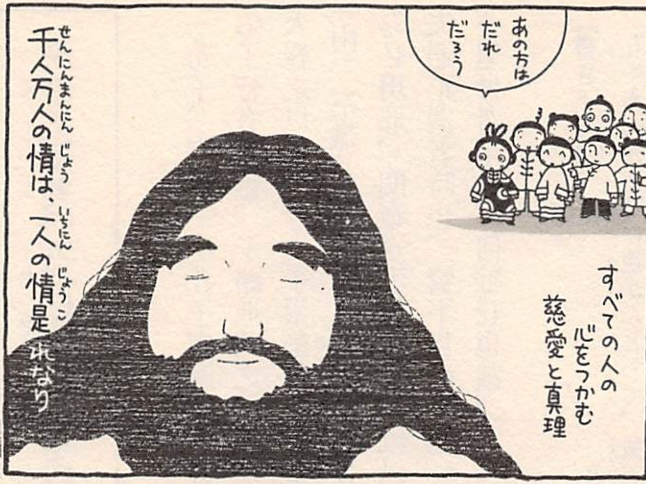
したがって、君子が家の中から一歩も出ずに、国内の実情をすべて集めることができるのは、操守の方法によってそうなるのである。

*

今日の故事成語は「千人万人の情は、一人の情是れなり」です。

この故事成語は、「多くの人たちが存在する。しかしその心の働き、それはほとんど変わらない。したがって、それらのすべての人の心をつかむためには、自分自身がしっかりと誠を実践し、それによって人と接し、それによりすべての人たちの心をつかむことができるんだ」と説く荀子の教えです。

ここで面白いことは、その操作にあたり、〝仁義を操守する〟と考えるところです。「仁」とは慈愛のことであり、「義」とは正義のことです。



ところで、この慈愛と正義、――これはわたくし流の言葉を使うならば、四無量心と、そして真理となりますが――これを自在に操ることができたらどうなるでしょうか。確かに、今のような曲がったマスコミの見方がないとするならば、すべての人はその人に信望を寄せるはずです。

しかし、この慈愛の実践、あるいは真理を体得すること、これほど難しいことはありません。したがって、荀子はその状態をキープするために学問を確定させなさい、学問をし続けなさいと言っているわけです。

さあ、あなたもこれからの人生をより良く素晴らしく生きるために、仁義を操守しましょう。

❖善を為す者は、天之に報ゆるに福を以てし、不善を為す者は、天之に報ゆるに禍を以てす

［荀子、宥坐］　孔子南適楚、厄於陳・蔡之間。七日不火食、藜羹不糂、弟子皆有飢色。子路進問之曰、「由聞之、為善者、天報之以福、為不善者、天報之以禍。今夫子累徳積義懐美、行之日久矣。奚居之隠也。」孔子曰、「由、不識、吾語汝。汝以知者為必用邪、王子比干不見剖心乎。汝以忠者為必用邪、関竜逢不見刑乎。汝以諫者為必用邪、呉子胥不磔姑蘇東門外乎。夫遇不遇者時也、賢不肖者材也。君子博学深謀、不遇時者多矣。由是観之、不遇世者衆矣、何独丘也哉。」

【書き下し文】
孔子南のかた楚に適かんとして、陳・蔡の間に厄す。七日火食せず、藜羹糂せず、弟

子皆飢色有り。子路進みて之に問いて曰く、「由之を聞く、善を為す者は、天之に報ゆるに福を以てし、不善を為す者は、天之に報ゆるに禍を以てすと。今夫子徳を累ね義を積み美を懐い、之を行うこと日久し。奚ぞ居の隠なるや」と。孔子曰く、「由、識らざるか、吾汝に語げん。汝知者を以て必ず用いらるると為すか、王子比干は心を剖かれざりしや。汝忠者を以て必ず用いらるると為すか、関竜逢は刑せられざりしや。汝諫者を以て必ず用いらるると為すか、呉子胥は姑蘇の東門外に磔せられざりしや。夫れ遇不遇は時なり、賢不肖は材なり。君子博学深謀にして、時に遇わざる者多し。是に由りて之を観れば、世に遇わざる者衆し、何ぞ独り丘のみならんや。」

【訳】

孔子は南方の楚の国に行こうとしたが、陳と蔡の両国のあたりで災厄に陥った。七日間も火で煮たものを食べることもできず、アカザの汁だけで米粒を交ぜることもできず、弟子たちはみな飢えた顔つきになった。そこで、子路が進み出て尋ねていうには、

「わたしはこう聞いています。

『善を行なう者には天は幸福によって報い、不善を行なう者には天は災難によって報いる』と。

今、先生は徳を重ね義を積み美を思い、長い間これを実践されてきました。どうして日常生活が窮迫するんですか」と。

孔子がいうには、

「由よ、わからないのか。わたしはお前に話そう。お前は知識ある者が必ず重用されると思っているのか。殷の王子であった比干は胸を切り裂かれたではないか。お前は忠義ある者が必ず重用されると思っているのか。夏の関竜逢は処刑されたではないか。お前は諫言する者が必ず重用されると思っているのか。呉の伍子胥は都の姑蘇の東門の外ではりつけにされたではないか。

そもそも、栄達するか不遇になるかは時勢によるのであり、賢者であるか愚者であるかは素質によるのである。博学で思慮深い君子でも、時勢に巡り合わなかった者は多いのだ。このことから考えると、時世に巡り合わなかった者は大勢いるのである。どうしてわたしだけのことであろうか。」

【注】

・孔子――春秋時代、魯（ろ）の人。儒家の祖。名は丘（きゅう）、字（あざな）は仲尼（ちゅうじ）。

・子路――春秋時代、魯の人。孔子の弟子。仲由（ちゅうゆう）の字。

・比干――殷の忠臣。紂王（ちゅうおう）のおじ。紂王の暴虐を諫（いさ）め、胸を裂かれて殺された。箕子（きし）・微子（びし）と並んで殷の三仁の一人とされる。

・関竜逢――夏の忠臣。桀王（けつおう）の暴政を諫めて殺された。

・伍子胥――春秋時代、楚の人。父と兄が楚の平王（へいおう）に殺されたので、呉王闔閭（こうりょ）に仕えて楚に復讐し、さらに夫差（ふさ）に仕えたが、讒言（ざんげん）により殺された。



今日の故事成語は「善を為す者は、天之に報ゆるに福を以てし、不善を為す者は、天之を報ゆるに禍を以てす」です。

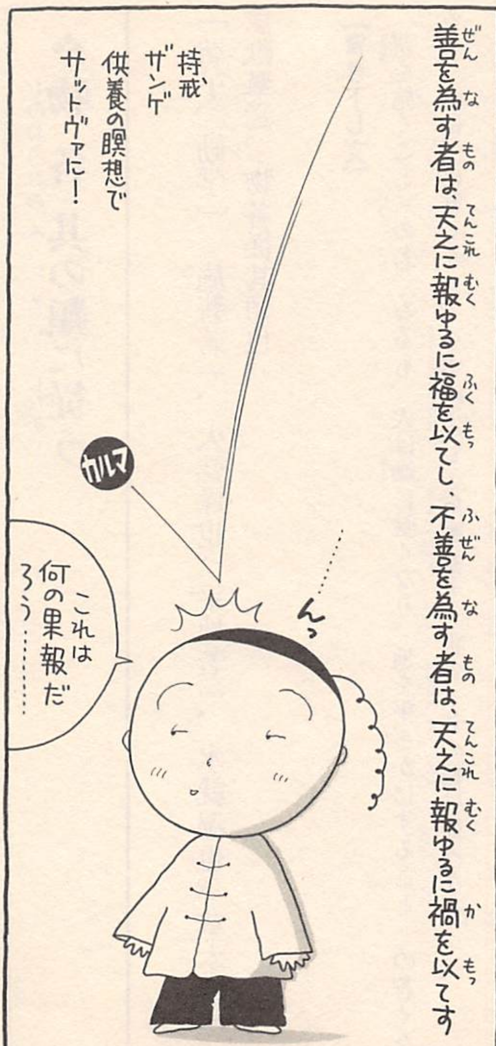
これは一見、カルマの法則のすべてを表わしているように思われます。しかし、この故事成語の内容に、わたしは異論があります。なぜならば、ここではたとえばタマスやあるいはサットヴァといわれる、原因・条件・結果のスピードに対する影響の部分について検討していないからです。

つまり、ある人が善行をなした場合、その人がもしサットヴァであるならば――、つまりその人が絶えず正直の戒を守り、約束したこと、決められたことをきちんきちんとこなしているとするならば、果報は即座に見える形で現われます。しかし、もし日ごろから大いなる嘘をついているとするならば、それはタマスの働きにより、逆に現象が非常に遅れ、何の原因によって今、果が存在するのかが理解できないのです。これがカルマの法則と呼ばれるものです。

したがって、一般的には、特に現代人のように十戒をすべて破っているような魂にとっては、自分の行為の因が果となることを理解するのは不可能に近いのです。そしてその

不可能なるがゆえに、よりいっそう悪い行為を行なうわけです。

したがって、皆さんがしっかりと正しい戒律を守り、そしてザンゲ、あるいは供養の瞑想を行なうならば、皆さんは必ずや幸福な人生を歩くことができるでしょう。



❖物各其の類に従う

［荀子、勧学］　施薪若一、火就燥也。平地若一、水就湿也。草木疇生、禽獣羣焉。物各従其類也。

【書き下し文】

薪を施くこと一の若くなるも、火は燥に就くなり。地を平らかにすること一の若くなるも、水は湿に就くなり。草木疇生し、禽獣羣す。物各々其の類に従うなり。

【訳】

薪を一様に敷き並べても、火は乾いた方に燃え移り、地面を一様に平らにならしても、水は湿った方に広がっていく。草や木はその種ごとに生え、鳥や獣はその群れごとに棲

む。物はそれぞれその同類に従うものである。



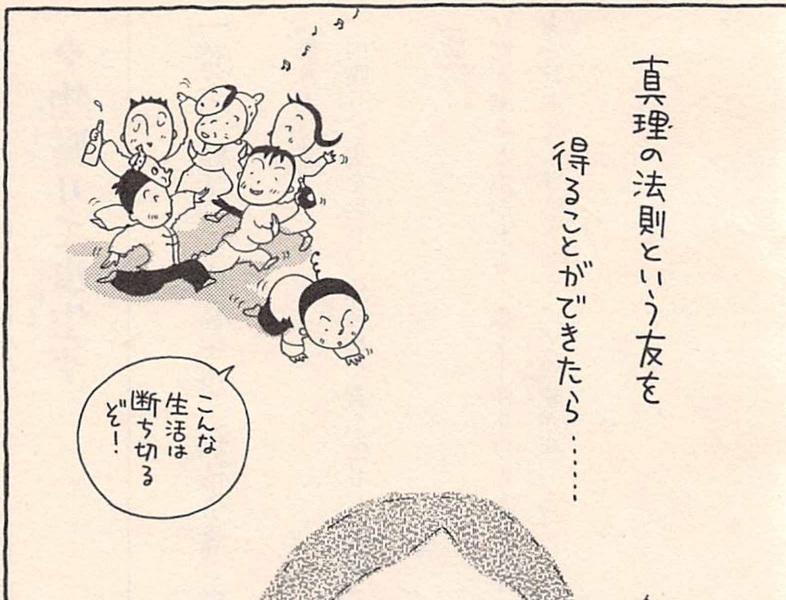
今日の故事成語は「物各其の類に従う」です。

これはまさに「類は友を呼ぶ」ということわざと同じ内容を表わしています。つまり、自分自身の持っている内側の要素が周りの環境を形成し、そして、それによってよりいっそう自分自身の持っている傾向が増大するということのたとえです。

仏典でも、第一の法則として、善き友とまみえよという言葉があります。この善き友は、もちろん世尊であり真理勝者であり仏陀であられるサキャ神賢のことを表わしているのです。

そして、皆さんがもし真理の法則という友を得ることができるならば、皆さんは自己の内側が変わり、必ずや幸福な人生、豊かな人生、発展的な人生を送ることができるでしょう。




真理の法則という友を
得ることができたら……
こんな
生活は
断ち切る
ぞ！

❖物腐りて虫生ず

［荀子、勧学］　肉腐生虫、魚枯生蠹、怠慢忘身、禍災乃作。

【書き下し文】
肉腐りて虫を生じ、魚枯れて蠹を生じ、怠慢身を忘れて、禍災乃ち作る。

【訳】
肉が腐ると虫がわき、魚が干からびるとキクイムシがわくように、人間も怠慢で我が身を忘れてしまうと、そこで災禍が生じる。

【類句】

・物必ず先ず腐り、而る後虫之に生ず



今日の故事成語は「物腐(ものくさ)りて虫生(むししょう)ず」です。

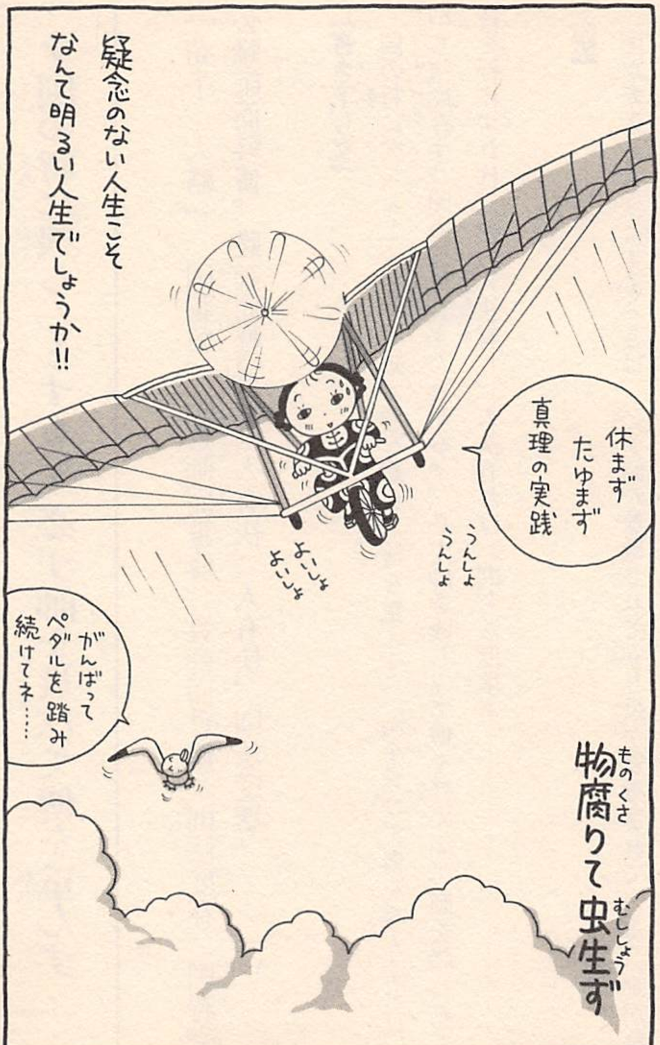
これは、すべての結果には必ず原因があるというたとえです。

例えば、人の心にまず疑いが生じる、そして讒言(ざんげん)を聞く、それによって正しくない判断をする等が、この比喩によって明らかとなります。

しかし、もし物が腐らなければどうでしょうか。当然それは、虫がわくことはありません。しかし腐らなくするためには、例えば冷凍する、あるいは完全に乾燥させる等の慎重な配慮が必要となります。

では、この慎重な配慮とは何でしょうか。それは絶えず正しい友と交わり、そして真理を学び、それにより絶えず熟考し続ける訓練ではないでしょうか。それによってのみ、初めて疑念が消滅するのです。そして、疑念のない人生こそ、なんと明るい人生でしょうか。

さあ皆さん、今日これから早速真理の実践を行ないましょう。


物腐りて虫生ず
休まず
たゆまず
真理の実践
うんしょ
うんしょ
よいしょ
よいしょ
疑念のない人生こそ
なんて明るい人生でしょうか!!
がんばって
ペダルを踏み
続けてネ……

❖国の将に興らんとするや、必ず師を貴びて傅を重んず

［荀子、大略］　国将興、必貴師而重傅。貴師而重傅、則法度存。国将衰、必賤師而軽傅。賤師而軽傅、則人有快。人有快、則法度壊。

【書き下し文】

国の将に興らんとするや、必ず師を貴びて傅を重んず。師を貴びて傅を重んずれば、則ち法度存す。国の将に衰えんとするや、必ず師を賤しみて傅を軽んず。師を賤しみて傅を軽んずれば、則ち人快有り。人快有れば、則ち法度壊る。

【訳】

国が繁栄しようとするときは、必ず師が尊敬されて守り役が尊重されている。師が尊

敬されて守り役が尊重されれば、法律制度は維持される。

国が衰退しようとするときは、必ず師が侮蔑されて守り役が軽視されている。師が侮蔑されて守り役が軽視されれば、人々は自分勝手なことをするようになる。人々が自分勝手なことをすれば、法律制度は崩壊する。



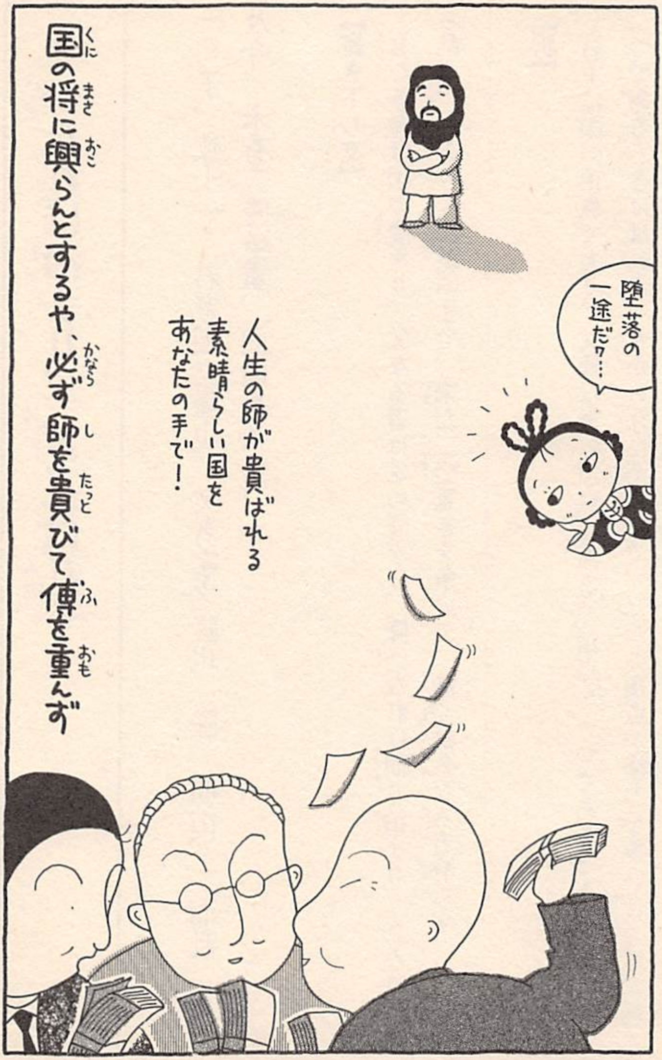
今日の故事成語は「国の将に興らんとするや、必ず師を貴びて傅を重んず」です。この「師」とは人を導く師のことであり、「傅」とは人を助ける人のことです。

ところで、現代はどうでしょうか。現代は宗教がボロボロに叩かれています。しかも、その叩き方はまさに現世の価値を肯定することこそ幸せであるといった立場にのっとり、強大な権力であるマスコミが宗教を叩いているのです。

ところで皆さん、何かお気づきになりませんか? それはこの荀子の教えどおり、今の国体がいかに腐敗しているかということです。例えば、政界の汚職、あるいは財界の汚職、あるいは教育界の汚職といったようなものが挙げられるでしょう。

本当に素晴らしい国をつくるためには、人生の師が貴ばれ、そして傅が重んじられなければならないのです。そのような国が現われるかどうか、それは皆さん一人一人の努力にかかっていますね。

国の将に興らんとするや、必ず師を貴びて傅を重んず



❖一（いっ）なれば治（おさ）まり、二（に）なれば乱（みだ）る

［荀子、致士］　君者国之隆也。父者家之隆也。隆一而治、二而乱。自古及今、未有二隆争重、而能長久者。

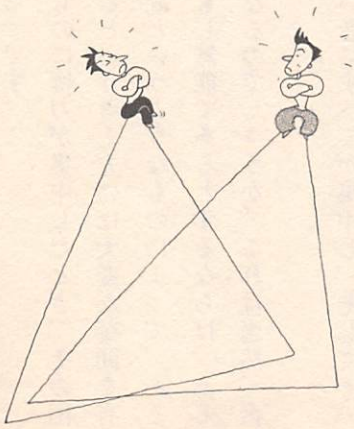
【書き下し文】

君（きみ）なる者は国の隆（りゅう）なり。父なる者は家の隆なり。隆一（いっ）なれば而（すなわ）ち治まり、二なれば而ち乱る。古（いにしえ）より今に及ぶまで、未（いま）だ二隆（にりゅう）重きを争いて、能（よ）く長久（ちょうきゅう）なる者有（あ）らず。

【訳】

君主は国の頂点であり、父親は家の頂点である。頂点が一つであるときは治まるが、二つであるときは乱れる。昔から今に至るまで、二つの頂点が権力を争い合って、長く

繁栄できたためしはまだない。



今日の故事成語は「一なれば治まり、二なれば乱る」です。

わたしはこの故事成語の意味合い、つまり一つのものに権力が集中したとき、その国は安泰となり、二つに分裂したとき、その国は乱れるという考え方には大変な疑問を有しています。なぜならば、例えば家系、あるいは血統というようなものによって、ある人が中心に立ったとしましょう。しかし、その人がもし無能であるとするならば、あるいは不徳であるとするならば、国は果たして安泰になるのでしょうか。これは当然、否ということができるからです。

したがって、仏典の引用にもあるとおり、徳の高い者にすべてが集中し、そしてその者のもとにすべての力が結集し、そして統合されたとき、初めて国家は安泰となるのです。

したがって、皆さんは、皆さんの確信のある人選び、これを今日これから行ない、そして未来の日本についてしっかりと考えていただきたいものです。


一なれば治まり、二なれば乱る
徳の高い魂に
すべての力を
結集させれば……

❖万世不易(ばんせいふえき)

［荀子、正論］　凡言議期命是非、以聖王為師、而聖王之分、栄辱是也。是有両端矣。有義栄者、有執栄者、有義辱者、有執辱者。志意脩、徳行厚、知慮明、是栄之由中出者也、夫是之謂義栄。爵列尊、貢禄厚、形執勝、上為天子諸侯、下為卿相士大夫、是栄之従外至者也、夫是之謂執栄。流淫汙僈、犯分乱理、驕暴貪利、是辱之由中出者也、夫是之謂義辱。詈侮捽搏、捶笞臏脚、斬断枯磔、藉靡舌縪、是辱之由外至者也、夫是之謂執辱。是栄辱之両端也。故君子可以有執辱、而不可以有義辱。小人可以有執栄、而不可以有義栄。有執辱無害為堯、有執栄無害為桀。義栄・執栄、唯君子然後兼有之、義辱・執辱、唯小人然後兼有之。是栄辱之分也。聖王以為法、士大夫以為道、官人以為守、百姓以為成俗、万世不能易也。

【書き下し文】

凡そ言議期命の是非は、聖王を以て師と為し、而して聖王の分は、栄辱是なり。是れ両端有り。義栄なる者有り、埶栄なる者有り、義辱なる者有り、埶辱なる者有り。志意脩まり、徳行厚く、知慮明かなるは、是れ栄の中より出づる者なり、夫れ是を之れ義栄と謂う。爵列尊く、貢禄厚く、形埶勝り、上は天子諸侯と為り、下は卿相士大夫と為るは、是れ栄の外より至る者なり、夫れ是を之れ埶栄と謂う。流淫汙僈にして、分を犯し理を乱り、驕暴貪利なるは、是れ辱の中より出づる者なり、夫れ是を之れ義辱と謂う。詈侮捽搏、捶笞臏腳、斬断枯磔、藉靡舌縪なるは、是れ辱の外より至る者なり、夫れ是を之れ埶辱と謂う。是れ栄辱の両端なり。故に君子は以て埶辱有るべくして、以て義辱有るべからず。小人は以て埶栄有るべくして、以て義栄あるべからず。埶辱有るも堯たるに害無く、埶栄有るも桀たるに害無し。義栄・埶栄は、唯君子にして然る後に之を兼有し、義辱・埶辱は、唯小人にして然る後に之を兼有す。是れ栄辱の分なり。聖王は以て法と為し、士大夫は以て道と為し、官人は以て守と為し、百姓は以て俗と成し、万世易うる能わざるなり。

【訳】

言論や約束事の是非は、すべて聖王を模範とするが、聖王の分別するものが栄誉と恥辱なのである。この栄誉と恥辱にはそれぞれ両極がある。義栄と勢栄、義辱と勢辱がそれである。

意志が正しく整い、徳行が厚く、知力と思慮が明らかなのは、自分の中から出てくる栄誉である。そもそも、こういうことを義栄というのである。爵位が高く、貢ぎ物や俸禄が多く、威勢が優れ、上は天子や諸侯となり、下は大臣や士大夫となるのは、外部から与えられる栄誉である。そもそも、こういうことを勢栄というのである。

でたらめな生活をして心がけがれ、人の本分を犯して条理を乱し、おごり高ぶり凶暴で利益を貪るのは、自分の中から出てくる恥辱である。そもそも、こういうことを義辱というのである。ののしり侮られ、頭髪をつかんで殴られ、鞭打ちや足切りの刑に遭い、首や手足を切られ、はりつけの刑になって死体をさらされ、縄で縛られて猿ぐつわをはめられたりするのは、外部から与えられる恥辱である。そもそも、こういうことを勢辱というのである。これが栄誉と恥辱の両極である。

したがって、君子には勢辱はあり得るが、義辱はあり得ないのであり、小人には勢栄はあり得るが、義栄はあり得ないのである。勢辱を受けても堯のような聖王になるのに支障はないし、勢栄を受けても桀のような暴君になるのに支障はない。義栄と勢栄とは、ただ君子であってこそはじめて併せ持つのであり、義辱と勢辱とは、ただ小人であってこそはじめて併せ持つのである。これが栄誉と恥辱の分別である。

聖王はこれを法則とし、士大夫はこれをよるべき道とし、役人はこれを守るところとし、民衆はこれを習俗とし、万世にわたって変えることのできないものである。

【注】

・堯、桀——13ページ参照。

【類句】

・万代不易（ばんだいふえき）
・百世不易（ひゃくせいふえき）



万世不易（ばんせいふえき）



今日の故事成語は「万世不易（ばんせいふえき）」です。

この万世不易というのは、絶対の真理を表わします。つまり、いかなる条件下であろうと変わらない現象、これが万世不易なのです。

例えば、「人間は必ず死ぬものである」、これは万世不易です。例えば、「聖者は決して不徳の行をなさない」、これは万世不易です。例えば、「小人（しょうじん）は必ず不善をなす」、これは万世不易です。

そして、この万世不易の原則をもしあなたが理解し、そのすべてに完達したならば、あなたは、この世の中がいかに不浄のものであり、無常のものであり、そして、この世の中に引っかかることそのものが不幸を招くことであることをよく理解できるはずです。

したがって、万世不易、絶対の真理を理解するように努めましょう。


絶対の真理のメガネで世界を見わたすと……
いっさいは無常なんだわ
この世界に執着することは苦しみなんだ……

❖流丸は甌臾に止まる

［荀子、大略］　知者明於事達於数。不可以不誠事也。故曰、「君子難説。説之不以道不説也。」語曰、「流丸止於甌臾、流言止於知者。」

【書き下し文】

知者は事に明かにして数に達す。不誠を以て事うべからざるなり。故に曰く、「君子は説ばしめ難し。之を説ばすに道を以てせざれば説ばざるなり」と。語に曰く、「流丸は甌臾に止まり、流言は知者に止まる」と。

【訳】

知者は物事をよくわきまえており、道理にも通達しているから、不誠実な態度で仕え

ることはできない。だから、「君子を喜ばせるのは難しい。君子を喜ばすには、道義によらないと喜ばないからだ」というのである。

ことわざにいうには、

「流れ弾はくぼみの所で止まり、流言は知者の所で止まる」と。

【類句】

・流言(りゅうげん)は知者(ちしゃ)に止(とど)まる



今日の故事成語は「流丸は甌臾に止まる」です。

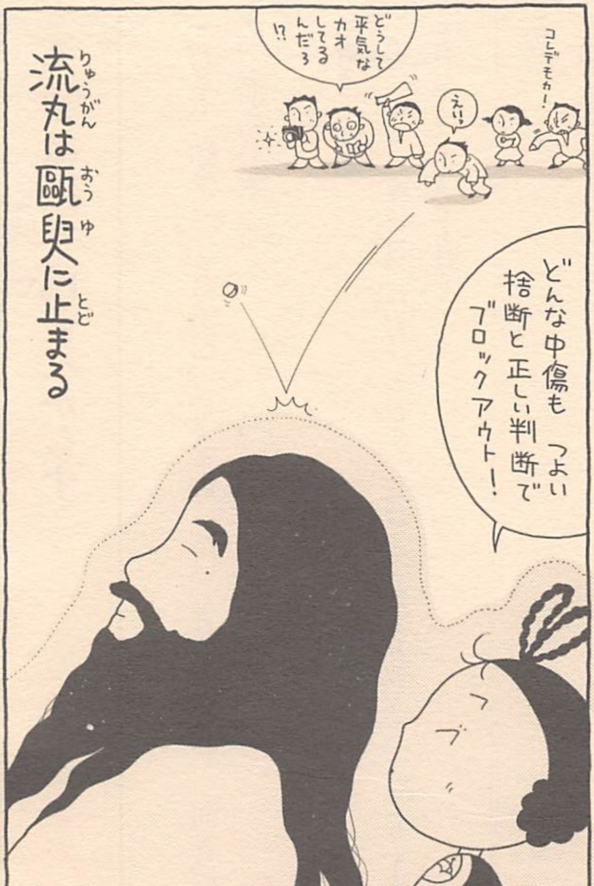
「甌臾」とは川のくぼみのこと。つまり、流れに乗っている丸い物も、そのくぼみにはまったら、そこから流れることはないという意味です。これは流言蜚語というものは、知者に対して何の効果も上げることができないことのたとえです。

ところで、オウム真理教バッシングに対して、だれが正しい判断をしたでしょうか。例えば中沢新一氏をはじめとする、知的レベルの高い人たちが、オウム真理教に対して妥当な評価をしました。これはまさにこの比喩そのままではないでしょうか。

わたしは世間の評価というものをいっこうに信じませんし聞きません。それはなぜでしょうか。それは、以前からよくわたしは、人から人への言葉の伝達がどのような変化をするかをよく実験しました。そしてそれによって、人の記憶、あるいは聞くことに対する理解力はそれほど高いものではないということを体感したからです。

したがって、流言蜚語と呼ばれるものは、わたしにとって全く何の意味もなしません。この訓練を続けていくと、他人の中傷・両舌に対しても、強い捨断と、そして正しい判断が身につきます。

さあ皆さん、今日からしっかりと、対象を認識する訓練を始めましょう。



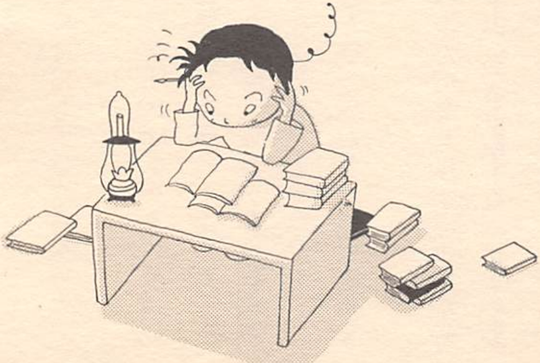
❖学は以て已むべからず

［荀子、勧学］　君子曰、「学不可以已。青取之於藍、而青於藍、冰水為之、而寒於水。」

【書き下し文】
君子曰く、「学は以て已むべからず。青は之を藍より取りて、藍よりも青く、冰は水之を為して、水よりも寒し」と。

【訳】
君子がいうには、
「学問は途中でやめてはならない。青色は藍の草から取るが、藍よりも青く、氷は水か

らできるが、水よりも冷たい」と。



今日の故事成語は「学は以て已むべからず」です。

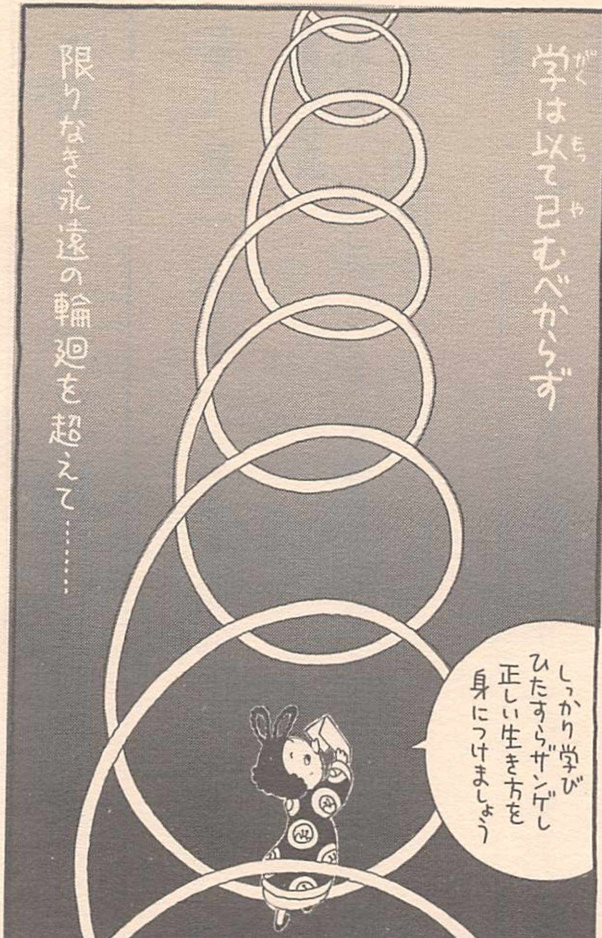
この「学は以て已むべからず」とは、学問を人生の途上で投げ出してはならないという教えです。しかし、わたしはこの考えには異論があります。

確かに有学の士、つまり、真理に完達したい者は学問を続けなければなりません。しかし、真理に完達する実践を行なう者が、一度真理に完全に完達した場合――これを一般的な漢訳仏教では「無学」といいますが――つまり、学を全くなす必要がない状態が訪れます。この状態では、瞬間瞬間に絶対の真理を身につけることができるのです。したがって、このような状態になるまで学を続けるべきであるというのがわたしの主張です。

ところで、皆さんは、この無学の状態になるためには、いったいどれほどの年数が必要だと思いますか? 仏典では、四アサンキャ十万カルパ――、つまり限りなき永遠の輪廻を使って、初めてこの無学に到達するといっているのです。

さあ皆さん、したがってこの荀子の言葉を実践し、死ぬまでしっかり学び、そして皆さんの心を清めるために、しっかり反省、つまりザンゲを行ない、正しい生き方を身に

つけ、いずれかの生で、この〝無学〟の状態になろうではありませんか。



❖薪を均しくして火を施せば、火は燥に就く

［荀子、勧学］　施薪若一、火就燥也。平地若一、水就湿也。

【書き下し文】

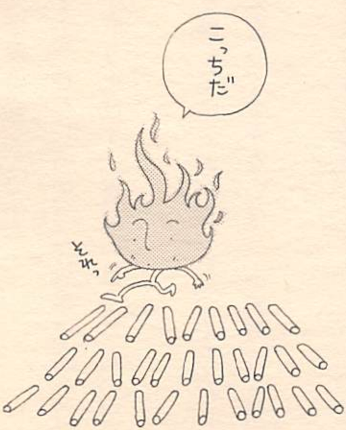
薪を施くこと一の若くなるも、火は燥に就くなり。地を平らかにすること一の若くなるも、水は湿に就くなり。

【訳】

薪を一様に敷き並べても、火は乾いた方に燃え移り、地面を一様に平らにならしても、水は湿った方に広がっていく。

【類句】

・薪を施すこと一の若くなるも、火は燥に就く



今日の故事成語は「薪を均しくして火を施せば、火は燥に就く」です。

これはまさに仏教的見解の比喩ということができます。わたしの調べた故事成語の辞典の内容は若干ずれていましたので、ここではそれを取り上げず、真理の目からこの現象を見たいと考えます。

つまりこれは、薪を火から等距離に並べた場合、乾燥している方から火がつくという意味。これはどういうことかというと、もともと、火がつくつかないは、木の方にも原因が存在しているんだということを意味しています。

わたしたちは人生において多くの好機、あるいは不幸の時を経験します。しかし、ある人はその好機をうまく利用し、そして人生を大いに発展させ、ある人は逆にその好機に乗ることができず、幸福を得ることはできません。逆に、ある不幸の条件がそろっていたとしても、ある人はそれによって不幸を経験せず、また、別の人は不幸を経験します。これは、まさに乾燥している木が燃えやすいという現象と同じです。

つまり、すべての現象は、自己の内側にその原因が内在し、条件によって結果が出るにすぎないのです。

したがって皆さんは、皆さんにいつ巡ってくるともわからない幸福のチャンスをしっかりと自分のものにできるように、日々精進していただきたいものです。



❖醯酸くして蜹聚まる

［荀子、勧学］ 質的張而弓矢至焉、林木茂而斧斤至焉、樹成蔭而衆鳥息焉、醯酸而蜹聚焉。

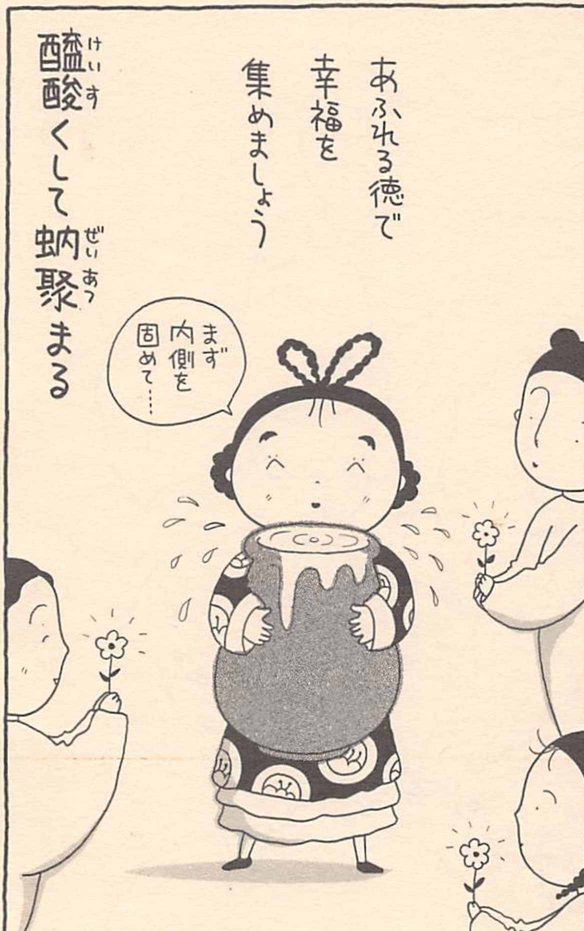
【書き下し文】
質的張りて弓矢至り、林木茂りて斧斤至り、樹蔭を成して衆鳥息い、醯酸くして蜹聚まる。

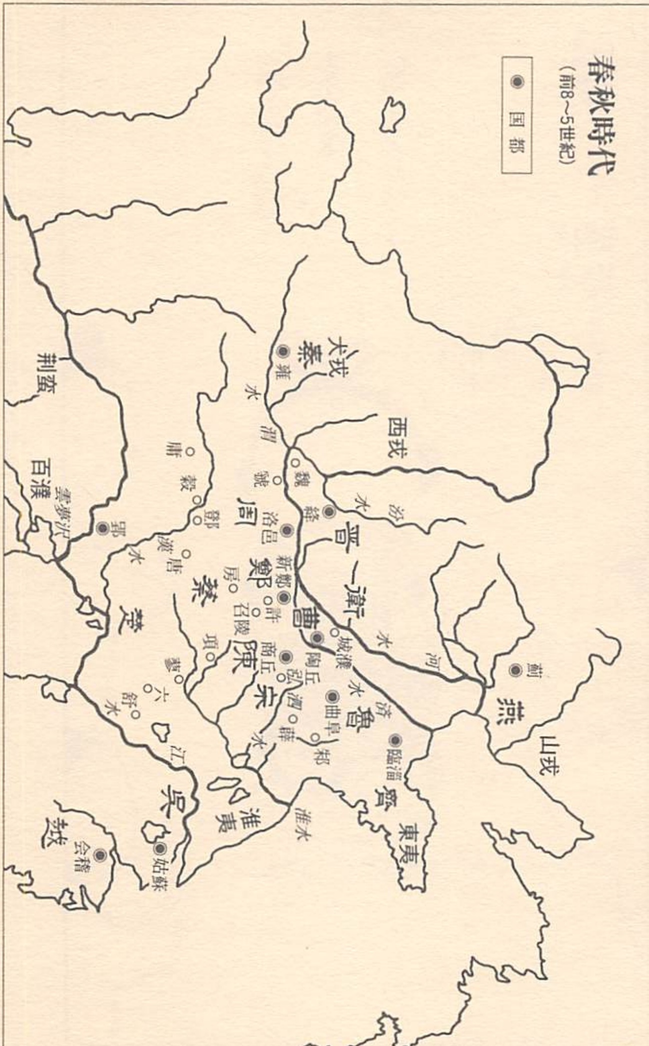
【訳】
弓の的が張られると弓矢が飛んでくるし、林の木が茂ると斧やまさかりで切られるし、樹木が木陰を作ると多くの鳥が憩うし、酢酒が酸っぱくなるとブヨが群がるのである。

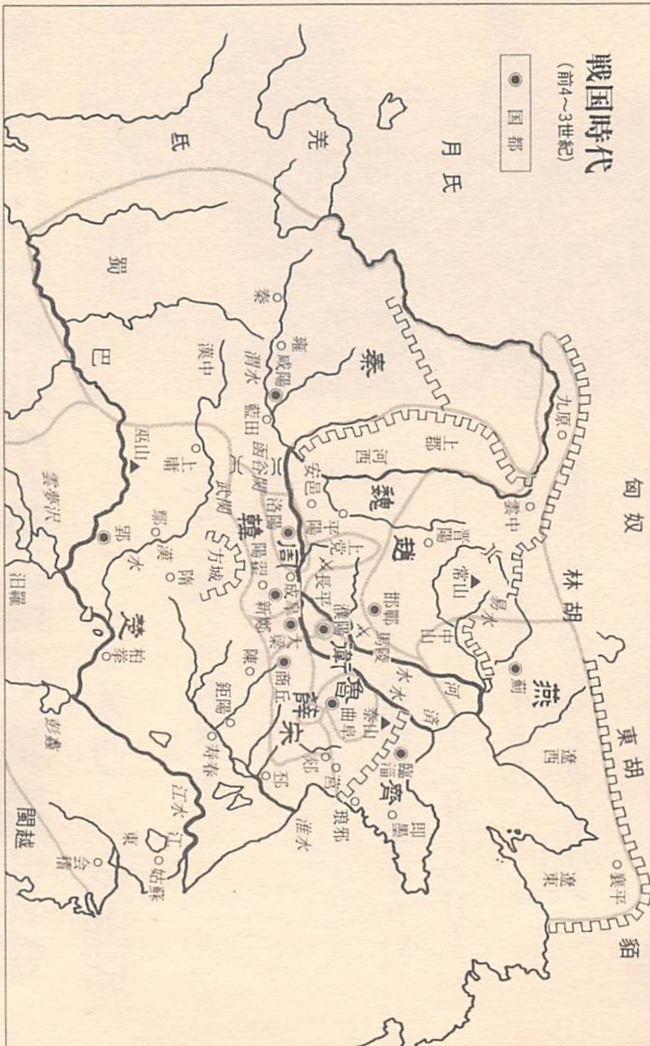


今日の故事成語は「醯酸くして蚋聚まる」です。
この「醯酸くして蚋聚まる」とは、「醯」——、つまり粥に酒を入れ、酸っぱくした状態になると、そこにブヨが集まるという意味です。
これは、賢人のそばには有徳の士が集まり、逆に不徳の者は、その不徳の者を不幸にする人たちが集まるという意味です。
仏典にも同じような引用があります。例えば、サーリプッタのグループは、皆「智慧者」であるとか、あるいはマハーモッガッラーナの周りに集まっている者は、皆「神通に優れている」とか、例えばデーヴァダッタの周りに集まる者は、皆「心に悪だくみをする」とかいう経典の内容です。
確かに、自分自身の居心地のいいところを、すべての者は求めていると思われます。しかし、本質的に心というものは、自己の幸福・自由・歓喜を求めているのではないでしょうか。したがって、これは絶対の真理・相対の真理の中の、相対の真理にすぎないというのがわたしの見解です。
さあ皆さん、今日から皆さんの内側を固め、そしてその徳が周りに漏れ、皆さんの周

りに皆さんを幸福にしてくれる人が集まるといいですね。




春秋時代
（前8～5世紀）
◉ 国都
燕
薊
山戎
斉
臨淄
東夷
魯
曲阜
宋
陳
鄭
新鄭
衛
晋
周
洛邑
秦
雍
犬戎
西戎
楚
郢
呉
姑蘇
越
会稽
淮夷
荊蛮
百濮
雲夢沢
蔡
曹
許
商丘
陶丘
薛
淮水
河
渭水
汾水
済水
漢水



戦国時代
(前4～3世紀)
国都
月氏
羌
氐
蜀
巴
秦
雍
咸陽
渭水
藍田
漢中
巫山
上庸
郢
鄢
漢水
随
楚
柏挙
雲夢沢
汨羅
彭蠡
閩越
会稽
姑蘇
江水
寿春
鉅陽
陳
匈奴
林胡
東胡
貊
九原
上郡
河西
雲中
燕
薊
遼西
遼東
襄平
趙
邯鄲
晋陽
常山
中山
易水
魏
安邑
平陽
大梁
韓
鄭
新鄭
陽翟
方城
函谷関
武関
洛陽
上党
長平
成皐
衛
濮陽
馬陵
河
済水
斉
臨淄
即墨
琅邪
莒
魯
曲阜
泰山
宋
商丘
薛
郯
邳
淮水



あなたに絶対の幸福を約束する

——オウム真理教

心身の悩みを解決したい
超健康体を得たい
豊かな生活を送りたい
素晴らしい人間関係を築きたい
スーパー・パワーを身につけたい
来世も幸福に生きたい
解脱し、永遠の至福を得たい

最高の教義、最高の奥儀、そして麻原尊師のもと、すべては確実に実現します。

●オウム真理教が誇る三つの基本的修行体系

1、マハーヤーナ

現実生活をより豊かにし、幸福な人生をお約束します。ご年輩の方、仕事が忙しく時間のあまり取れない方にお勧めです。

2、タントラ・ヴァジラヤーナ

行法、イニシエーションを中心として進め、霊性を向上させて、神秘世界を実体験することができます。この修行体系を選択すれば今生で解脱し、悟ることも夢ではありません。

3、テーラヴァーダ

原始仏教の上座部仏教を再現しました。真理にのっとって清浄な日常生活を送ることによって、幸せな来世が約束されます。また、経典の記憶修習によって心の成熟が促され、悟りを得ることが可能です。オウム真理教の深遠な教義を徹底的に学びたい方に最適です。

※資料請求券を貼付けしたハガキ、または電話にて最寄りの本・支部までご連絡ください。入信案内等、詳しい資料をお送りします。

キリトリ線

もりもり
智慧のわく書 5
資料請求券

モスクワからあなたに——

オウム真理教放送「エウアンゲ



尊師の声が あなたの耳を直撃！

麻原尊師が電波にのってあなたのもとへ。
宗教、音楽、科学、神秘……。
盛りだくさんの内容と、
次から次への新しい発見で
眠気も吹っ飛ぶこの時間！
さあ、あなたも今日から尊師を聴こう！

"オウム真理教ネット"



※ただ今、新入会員の方に素敵なプレゼント（えんじょいはぴねす最新号）をさしあげています。

●なお、その他詳細は下記までお問い合わせください。

〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17

"オウム真理教ネット" 事務局　TEL 03-5450-3554

好評！ あなたとオウムをつなぐ
パソコン通信、

オウムについてもっと詳しく知りたい……
教義その他について、いろいろと聞きたいことがある……
オウムの人たちの生の声を聞いてみたい……
そんなあなたに最適な情報ネットワーク

"オウム真理教ネット"のご紹介

TEL番号	03-5450-5580（4回線） Tri-P利用可能（CXAUMNET）
通信速度	1200/2400bps
通信条件	BITS-8 PARITY-NONE STOP-1
プロトコル	X-MODEM Y-MODEM(-G)
ゲストID	GUEST
運用時間	24時間
入会方法	ゲストログイン後、 SYSOPあてメールにて申請

めんどうな手続きはいっさいありません。オウムに興味をお持ちの方、聞いてみたいことがある方は、今すぐお気軽にご利用ください。

PART-13



これが尊師！

B6判　定価570円

雑誌・テレビ・ラジオにと、今大人気の麻原尊師。尊師の人気の秘密は何か？　雑誌社からの取材を中心に、様々な角度から尊師の魅力を探る。

PART-14



宗教の条件

B6判　定価570円

今、本物が明らかになる！　真の宗教の条件とは？　第三次宗教ブームと呼ばれる現在、様々な宗教の中から間違いなく本物を選び出すための条件を、あますところなく説き示す一冊。

PART-15



絶対幸福への道

B6判　定価620円

最終解脱者、麻原彰晃尊師が、幸福になるための最速・最短の道をあなたに伝授する！　あなたを確実に幸福へと導く秘法が満載の、在家修行者座右の書。

PART-16



麻原彰晃　方便品

B6判　定価720円

難解な仏典の比喩・奥儀が現代的に説き明かされた！　釈迦牟尼の深遠な教えの真髄を、最終解脱者麻原尊師が巧みな方便でわかりやすく解説。読んで、考え、実践するための、本物のお経を公開！

PART-17



世界は尊師を待っている

B6判　定価1030円

転換期にあるロシアでの説法、大学での講演、インタビュー等を集めた第一部。テーラヴァーダ仏教の国スリランカでの高僧との対談を集めた第二部。四十八ページカラーで尊師の幅広い活動を紹介。

PART-18



THE説法Ⅰ

B6判　定価670円

「解脱が二十一世紀の日本を、そして世界を背負う！」――新しい時代の文明理念が今明らかに！　道なき現代社会に明確な指針を与える麻原尊師の説法集。

PART-19



THE説法Ⅱ

B6判　定価570円

本来ならば直弟子にしか明かされない秘儀、タントラ・ヴァジラヤーナの高度な内容も惜しみなく公開。激動の時代において絶対不動の自己を確立させてくれる麻原尊師の説法の集大成。

PART-20



麻原彰晃、戦慄の予言

B6判　定価620円

「これから二〇〇〇年にかけて、筆舌に尽くし難いような、激しい、しかも恐怖に満ちた現象が連続的に起こる……。」

衝撃の近未来予言と、人類最終戦争を生き残るための秘儀を麻原尊師が特別に伝授！

（価格にはすべて消費税が含まれています。）

●全国の有名書店にてお求めください。弊社に直接お申し込みの場合は下記まで。

オウム出版　〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17　TEL 03(3439)6043　振替 東京2-109325

大阪支部　06(251)4264
〒541　大阪府大阪市中央区久太郎町3-2-15 マルイビル1F·B1F
堺支部　0722(21)1843
〒590　大阪府堺市海山町4-168-9
和歌山支部　0734(24)2859
〒640　和歌山県和歌山市駿河町42 和歌山酒販会館2F
広島支部　082(264)6250
〒732　広島県広島市南区西蟹屋4-4-18 和田ビル3F
高知支部　0888(84)8286
〒780　高知県高知市はりまや町2-8-8 安藤ビル2F
福岡支部　092(474)2877
〒812　福岡県福岡市博多区博多駅前2-6-15 第一渡部ビル6F
那覇支部　098 (869) 7707
〒902　沖縄県那覇市安里2-4-12 嘉数グラビアハイツ5F
深谷出張所　0485(74)6205
〒366　埼玉県深谷市萱場441-8
渋谷出張所　03(3476)5065
〒150　東京都渋谷区道玄坂1-15-3　プリメーラ道玄坂317号

〈海外支部〉
ニューヨーク支部　212(421)3687
8 East 48th St. #2E (2nd Floor), New York, N.Y. 10017 U.S.A.
ボン支部　(0228)616647
Auf dem Hügel 48, Endenich, 5300 Bonn 1, S.R.Germany
スリランカ支部 (AUM SACCA SAṄGHA ASSOCIATION)
Horahena, Watte, Angulugaha, Galle, Sri Lanka
モスクワ支部　7-095-455-95-32
Kindergarten No.468, 32A Petrozavodskaya ul. Moscow, 125475
Russia

この本をお読みになって、どのような感想をお持ちになりましたか。あなたのご意見を、ぜひ下記の「『もりもり智慧のわく書』読者係」までお送りください。

〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17
オウム出版「『もりもり智慧のわく書』読者係」

◆各道場のご案内◆

富士山総本部　0544(54)1267
〒418-01　静岡県富士宮市人穴381-1
東京総本部　03(5467)2745
〒107　東京都港区南青山7-5-12　マハーポーシャビル2・3F
世田谷道場　03(3327)8565
〒156　東京都世田谷区赤堤2-42-5 杉田村松ビル1F
杉並道場 03(3396)9393
〒167　東京都杉並区下井草4-4-4　井口ビル2F
札幌支部　011(241)4938
〒060　北海道札幌市中央区北2条西2丁目19-1 チサンホテル本館2F
仙台支部　022(268)3904
〒982　宮城県仙台市若林区河原町1-4-20 十全会ビル2F
水戸支部　0292(26)8044
〒310　茨城県水戸市中央2-2-1 HDビル6F
高崎支部　0273(46)1573
〒370-12　群馬県高崎市倉賀野町下稲荷前1081-5
船橋支部　0474(66)4965
〒274　千葉県船橋市新高根6-26-18
横浜支部　045(243)8079
〒231　神奈川県横浜市中区若葉町3-41-2 コスモ伊勢佐木長者町ビル204
金沢支部　0762(51)8457
〒920　石川県金沢市京町25-20 ソフトオフィスビル2+4 2F
松本支部　0263(28)7429
〒399　長野県松本市芳川野溝527-3
福井支部　0776(26)6145
〒910　福井県福井市御幸3-3-41 東伸ビル2F
名古屋支部　052(252)0709
〒460　愛知県名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル3F
京都支部　075(371)3759
〒600　京都府京都市下京区堀川通り松原上ル五軒町384 松本ビル2F

もりもり智慧のわく書⑤



1993年7月10日・初版発行

定　価 ―――――― 550円
著　者 ―――――― 真理の御魂 最聖 麻原彰晃尊師
発行者 ―――――― 松本知子
　　　　　　　　　石井久子
発　行 ―――――― 株式会社オウム
〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17
TEL　03(3439)6043
振　替　東京2－109325
※乱丁・落丁はお取り替えいたします

ISBN4-87142-077-9　C7098　P550E

もりもり智慧のわく書⑤



ISBN4-87142-077-9 C7098 P550E 定価550円（本体534円）